BOM for Windows Ver.7.0
インストールマニュアル

2020 年 4 月 28 日

免責事項

本書に記載された情報は、予告無しに変更される場合があります。セイ・テクノロジーズ株式会社は、本書に関していかなる種類の保証（商用性および特定の目的への適合性の黙示の保証を含みますが、これに限定されません）もいたしません。

セイ・テクノロジーズ株式会社は、本書に含まれた誤謬に関しての責任や、本書の提供、履行および使用に関して偶発的または間接的に起こる損害に対して、責任を負わないものとします。

著作権

本書のいかなる部分も、セイ・テクノロジーズ株式会社からの文書による事前の許可なしには、形態または手段を問わず決して複製・配布してはなりません。

本ユーザーズマニュアルに記載されている BOM はセイ・テクノロジーズ株式会社の登録商標です。Microsoft, Windows は、米国 Microsoft Corporation の米国及びその他の国における登録商標です。その他会社名、製品名およびサービス名は各社の商標または登録商標です。

なお、本文および図表中では、「™ (Trademark)」、「® (Registered Trademark)」は明記しておりません。

目次

本インストールマニュアルについて 1
本書の目的および使い方 1
製品表記 1
表記方法 1
第 1 章 BOM の概要 2
1 .1 概要 2
1 .1 .1 BOM の動作イメージ 2
1 .1 .2 BOM の特徴 2
1 .1 .3 BOM の利用例 3
1 .2 BOM のシステム要件 4
1 .2 .1 ソフトウェア動作環境 4
1 .2 .2 ハードウェア環境 5
1 .2 .3 BOM のコンポーネント類 5
第 2 章 インストール前の事前確認 8
2 .1 Windows Update について 8
2 .2 旧 SR バージョンの BOM for Winodws Ver.7.0 へのリモート接続について 8
第 3 章 BOM 7.0 システム構成 9
3 .1 最小構成（BOM 7.0 導入コンピューターのみを監視） 9
3 .2 もっとも一般的な構成 9
3 .3 その他の構成 10
3 .4 推奨する構成 10
第 4 章 BOM 7.0 を使ってみよう 11
4 .1 Windows Server 2012 コンピューターに BOM 7.0 をインストールし通知を行う例 11
4 .1 .1 インストールとシステム設定 11
4 .1 .2 通知の設定 21
4 .2 リモート接続の設定 27
4 .2 .1 スナップインの追加 27
4 .2 .2 リモート接続の実行 30
4 .3 代理監視 31
4 .3 .1 事前準備 31
4 .3 .2 代理監視の設定 32
第 5 章 BOM 7.0 のインストール 37
5 .1 プログラムのインストール 37
5 .1 .1 標準インストール 37
5 .1 .2 完全インストール 41

5 .1 .3 カスタムインストール 44
5 .2 システム設定と初期設定 49
5 .2 .1 システム設定ウィザード 49
5 .2 .2 初期設定ウィザード 51
第 6 章 BOM 7.0 のアンインストール 57
6 .1 ライセンスの削除 57
6 .2 プログラムの一括アンインストール 60
第 7 章 付録 62
7 .1 評価版ライセンスキー 62
7 .1 .1 BOM 7.0 基本製品評価版ライセンスキー 62
7 .1 .2 オプション製品の評価版ライセンスキー 62

本インストールマニュアルについて

本書の目的および使い方

本マニュアル‘BOM for Windows Ver.7.0 インストールマニュアル’は、Windows コンピューターに BOM 7.0 をインストールし、BOM 7.0 による Windows システム監視を体験していただくためのマニュアルです。マニュアル内では、BOM の概要説明とインストール手順、および簡単な監視設定と実際の通知方法を Windows Server 2012 へのインストールを例にご説明しております。さらに詳しい BOM のすべての機能についての説明や使用方法、エラーメッセージなどについては‘BOM for Windows Ver.7.0 ユーザーズマニュアル’をご参照ください。

まず動作確認を行いたい方は、‘第 4 章 BOM 7.0 を使ってみよう’をご参照ください。この章では 1 台のコンピューターに BOM を導入する具体的な方法とその設定方法を確認する方法、そして BOM を導入していないコンピューターへの代理監視の方法が具体的に記述されています。

BOM 7.0 の各コンポーネント（BOM 本体、集中監視 Web サービス、アーカイブデータベース、アーカイブマネージャー、各オプション）のインストール方法については、‘第 5 章 BOM 7.0 のインストール’または、各オプション製品のマニュアルをご参照ください。

製品表記

本インストールマニュアルでは、以下について略称を使用しています。

正式名称、または略していない表記	本マニュアルでの呼称（略称）
BOM for Windows Ver.7.0 SR3	BOM 7.0 または BOM 7.0 SR3
BOM for Windows Ver.7.0 (SR 無し)	BOM 7.0 SR 無し
BOM for Windows Ver.7.0 SR1	BOM 7.0 SR1
BOM for Windows Ver.7.0 SR2	BOM 7.0 SR2
Windows 7、Windows 8.1、Windows 10	Windows クライアント
Windows Server 2008 R2、Windows Server 2012、Windows Server 2012 R2、Windows Server 2016、Windows Server 2019	Windows サーバー
Windows サーバー、Windows クライアントをまとめて	Windows コンピューター

表記方法

本インストールマニュアルでは、以下の表記規則を使用しています。

表記	説明
‘参照先’	シングルクォート内（’と’）は本マニュアル内、あるいは別のマニュアルの参照を示します。
[ボタン]	角括弧内（[と]）はボタン名を示します。
<キー>	山括弧(不等号記号)内（<と>）はキーボード入力を示します。

第1章 BOM の概要

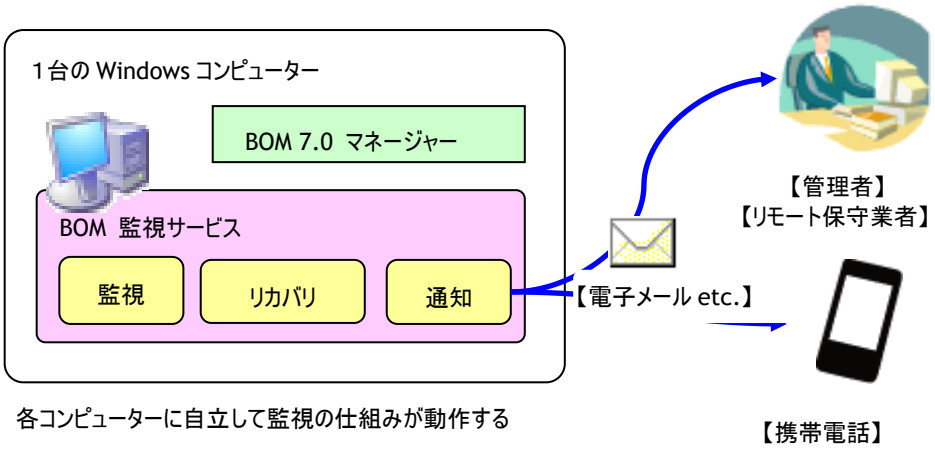
1.1 概 要

BOM は、Windows クライアント、Windows サーバーコンピューターの安定稼働のための稼働状態を監視するソフトウェアです。

BOM は、システム管理者に代わって、Windows オペレーティングシステム、アプリケーション、およびハードウェアのパフォーマンスや状態を監視します。異常な状態を発見すると、それをシステム管理者に通知し、問題の修復処理を行うことができます。

1.1.1 BOM の動作イメージ

1 台の Windows コンピューターでの動作イメージ



各コンピューターに自立して監視の仕組みが動作する

システム管理者は、BOM によって Windows コンピューターを簡単かつ確実に監視できるようになります。GUI 画面とマウス操作による設定操作で、個々のコンピューターの稼働状況やリソースを監視し、コンピューター上で動作するアプリケーションを制御することができます。監視 ON/OFF スケジュールの設定により、曜日ごとに時間帯を設定して監視することも可能です。障害発生時には、電子メールを使って障害情報を通知することができます。

1.1.2 BOM の特徴

- Windows コンピューターのハードウェア、アプリケーション（データベースやグループウェア）、業務システムについて、管理者に代わって監視、通知、リカバリ処理を行います。
- 導入、設定、操作が非常に簡単です。
- 数多くの監視テンプレートを標準で同梱しています。テンプレートを活用して、ニーズに即した監視を直ちに行うことができます。テンプレートは随時開発し、ホームページから提供しています。
- イベントログメッセージ、パフォーマンスカウンター、サービス、テキストログのいずれかに有用な情報が書き出されるアプリケーションやハードウェアを、基本パッケージを使った簡単な設定で監視することができます。
- BOM は、導入されたそれぞれのサーバー上で Windows のサービスとして動作し、バックグラウンドで監視を行い、ステータスに応じて通知処理やリカバリ処理を行うことができます。Windows コンピューターの監視および管理のために専用のサーバーを構築する必要がなく、監視に必要とするシステムリソースも小さく抑えられています。
- 追加のプログラムをインストールしたくない・できないサーバーを、BOM を導入した別のサーバーから監視することができます。
  ※ この機能を代理監視機能といいます

- 自立分散型監視モデルを採用することで、システム環境の拡張や変更にも柔軟に対応することができます。様々なネットワーク構成や特定用途のシステムにも適用できます。

1.1.3 BOM の利用例

1. 障害監視

   障害発生時、直ちに管理者に通知するよう設定することで、迅速に障害対応できます。BOM の設定による自動リカバリ処理も可能です。

2. 障害予兆監視

   障害によりシステムが運用停止する前に、その予兆を検知して的確な対処を行い、保守コスト、システムダウンタイムを限りなくゼロに近づけます。

3. システムリソース監視

   ハードディスクやメモリ等のシステムリソースの使用状況を監視し、システムダウンや極度の性能低下など、システム運用に支障をきたす前に対処を実施し、レスポンス等のサービスレベルの低下やシステムダウンタイムを限りなくゼロに近づけます。

4. 性能監視

   異常な性能低下や利用者数の増大の傾向を監視し、ユーザーに対するサービスレベルの低下を未然に防ぎます。

5. セキュリティ監視

   オペレーティングシステムの監査機能によって書き出されるログを監視することで、不正なアクセスおよび重要なデータの漏洩を発見します。

1.2 BOM のシステム要件

1.2.1 ソフトウェア動作環境

サポート OS ※1 ※2		
バージョン	エディション	サービスパック
Windows 7	Professional Edition(64-bit)	SP1
	Enterprise Edition(64-bit)	
	Ultimate Edition(64-bit)	
Windows Server 2008 R2 ※3	Standard Edition	SP1
	Enterprise Edition	
	Datacenter Edition	
Windows Server 2012 ※3	Standard Edition	Update なし
	Datacenter Edition	
Windows 8.1	Pro Edition(64-bit)	Update1
	Enterprise Edition(64-bit)	
Windows Server 2012 R2 ※3	Standard Edition	Update1
	Datacenter Edition	
Windows 10	Pro Edition(64-bit)	バージョン 1511 以降
	Enterprise Edition(64-bit)	
Windows Server 2016 ※3 ※4 (デスクトップ エクスペリエンス)	Standard Edition	バージョン 1607 以降
	Datacenter Edition	
Windows Server 2019 ※3 ※4 (デスクトップ エクスペリエンス)	Standard Edition	—
	Datacenter Edition	
Windows Storage Server 2012 ※5 ※6	(64-bit)	Update なし
Windows Storage Server 2012 R2 ※5 ※6	(64-bit)	Update1
Windows Storage Server 2016 ※5 ※6	(64-bit)	Update なし
Windows Server IoT 2019 for Storage ※5 ※6	(64-bit)	Update なし

※1. OS への対応検証はサービスパック単位となっており、個別パッチ(Hotfix、QFE など)毎の検証は行っておりません。ただし、個別パッチが BOM 7.0 の動作に影響を与える場合は、弊社の Web サイトにて情報を提供いたします

※2. 各 OS について Microsoft 社の延長サポート終了日までの対応となります。延長サポート終了日以降に該当 OS 上で不具合が発生した場合、サポートは対象外となります

※3. Server Core インストールの場合、代理監視機能によるリモート監視のみサポートしております

※4. Nano Server インストールの場合、代理監視機能によるリモート監視のみサポートしております

※5. Storage Server 製品群では、BOM オプション製品は動作対象外です

※6. Windows Storage Server は代理監視機能によるエージェントレス監視のみサポートしております。ローカル監視をご検討の場合は別途弊社テクニカルサポートへご相談下さい

1.2.2 ハードウェア環境

基本条件	Intel 64 (x64) アーキテクチャ準拠のコンピューター もしくは、VMware、Hyper-V など、仮想的に同アーキテクチャを再現できる環境	
	マルチ CPU に対応(OS のサポート範囲に準拠)	
CPU	OS の推奨環境に準拠	
メモリ	搭載メモリ量	OS の推奨環境に準拠
	BOM 動作時の 占有メモリ容量	1 インスタンス当たり 20MB
ディスク容量	インストール時の 占有ディスク容量	50[MB]
	運用時の容量	監視項目数やログデータ量の増加のため、 1 インスタンス当たり 3[GB]を推奨
ディスプレイ	解像度	800 ×600 以上の解像度、推奨 1024 ×768 以上
	色数	256 色以上

1.2.3 BOM のコンポーネント類

BOM は、必須コンポーネントとオプションコンポーネントで構成されています。これらのコンポーネントは、1 台のコンピューターにすべてインストールすることも、複数のコンピューターに個別にインストールすることも可能です。

A. 必須コンポーネント

BOM による監視を実行するための必須コンポーネントは以下のとおりです。

- BOM7Agent サービス(BOM 監視サービス)

  BOM7Agent が動作しているコンピューターには監視設定情報と、監視ログ等を保持するデータベースが含まれています。監視を実行するには、BOM7Agent が必要です。BOM7Agent は、一台の Windows コンピューター中で複数起動することが可能です。BOM7Agent は、BOM 7.0 マネージャーで監視インスタンスを作成するごとに“BOM7Agent$<インスタンス名>”の名前でサービスとして一つ登録されます。

- BOM7Helper サービス(BOM ヘルパーサービス)

  BOM7Helper サービスは、BOM の各コンポーネント間の通信のために機能します。BOM 7.0 マネージャー、BOM 7.0 集中監視 Web サービスを利用するには必須のサービスであるため、セットアップ時には必要に応じてインストールされます。

- BOM 7.0 マネージャー

  BOM の環境では、少なくとも 1 つの“BOM 7.0 マネージャー”が必要です。BOM 7.0 マネージャーは、コンピューターの監視およびアクション、通知の設定を行うために使用します。また、監視結果やアクション処理、通知処理の結果を確認することができます。BOM 7.0 マネージャーは、Windows 標準のシステム管理ユーザーインタフェースであるマイクロソフト管理コンソール(MMC)のスナップインとして提供されます。

  標準のインストールでは、BOM 7.0 マネージャーは、BOM7Agent と共に各監視対象コンピューターにインストールされます。監視対象コンピューター以外のコンピューターにインストールした BOM 7.0 マネージャーから、監視対象コンピューターに接続して監視設定を行うことも可能です。

  またこの BOM 7.0 マネージャーをインストールすることで、監視グループや監視項目の有効無効を Windows のタスクスケジューラに対して簡単に登録できるツール、“BOM 7.0 監視スケジューラ”も同時にインストールされます。

B. オプションコンポーネント

オプションコンポーネントは以下のとおりです。

- BOM 7.0 集中監視 Web サービス

  BOM 7.0 では集中監視コンソールを Web コンソールとして提供しています。BOM 7.0 集中監視 We サービスは、Web ブラウザーを使用して監視対象としている複数のコンピューターの状態をグループ化して参照するためのサービスです。BOM がインストール済みのコンピューターの状態を定期的にチェックして Web ブラウザー上で確認することができます。監視するコンピューターの台数が多数の場合や、異なるフロアに複数の監視対象コンピューターが配置されている場合に、ネットワークがつながっている任意のコンピューターの Web ブラウザーで集中的に監視ステータスの確認が行えます。

- BOM7Archive（アーカイブサービス）

  BOM の監視データを、長期間保存する BOM 7.0 アーカイブデータベース（SQL データベース）に格納したい場合にインストールします。アーカイブサービスを利用するには、最低 1 台の BOM 7.0 アーカイブデータベースが構築されている必要があります。

- BOM 7.0 アーカイブデータベース

  BOM 7.0 の監視データを長期間保存するためのデータベースです。SQL Server 2008～2019 上に構築します。小規模（5 台以下）な環境では各 SQL Server の Express Edition を利用することも可能です。BOM 7.0 アーカイブデータベースに蓄積した監視データを、BOM 7.0 アーカイブマネージャーを使ってリスト表示やグラフ表示、簡単なレポート作成を行うことができます。

- BOM 7.0 アーカイブマネージャー

  BOM 7.0 アーカイブデータベースに保存されている監視データを、リスト表示やグラフ表示するためのプログラム（MMC スナップイン）です。BOM 7.0 アーカイブマネージャーを利用するには、最低 1 台の BOM 7.0 アーカイブデータベースが構築されている必要があります。

- BOM SNMP トラップ受信機能

  ネットワーク機器等から送信されてきた SNMP トラップを受信し、Windows のイベントログへ出力するプログラムです。別途監視テンプレートを使用することにより、BOM で簡単に監視を行うことが可能です。

- BOM バックアップサービス

  ドライブ単位やフォルダー、ファイル単位でバックアップを行うサービスです。BOM バックアップサービスを利用する際は、別途 Windows に標準搭載されている“Windows Backup サービス”をインストールする必要があります。

  ※クライアント OS は標準でインストールされています

- BOM かんたん設定ツール

  BOM for Windows Ver.7.0 を新規で導入したい Windows コンピューターに対して、あらかじめ設定した内容でインストーラーを作成するためのツールです。

- BOM 監視テンプレート

  簡単に使用できる監視設定のサンプル集です。テンプレートを監視対象に合わせて選択し、実環境に合わせて簡単な設定を行うだけで監視を始めることができます。

C. オプション製品

BOM 7.0 には以下のオプション製品をご用意しております。

- BOM VMware オプション Ver.7.0

  BOM 7.0 がインストールされた Windows OS から、VMware ESXi、VMware vSphere を監視するオプション製品です。

- BOM Linux オプション Ver.7.0

  BOM 7.0 がインストールされた Windows OS から、Linux OS を監視するオプション製品です。

- BOM Oracle オプション Ver.7.0

  BOM 7.0 がインストールされた Windows OS から、Oracle データベースを監視するオプション製品です。

- BOM SQL Server オプション Ver.7.0

  BOM 7.0 がインストールされた Windows OS から、SQL Server データベースを監視するオプション製品です。

- BOM Citrix XenApp® オプション Ver.7.0

  BOM 7.0 がインストールされた Windows OS から、XenApp®および RDS を監視するオプション製品です。

- BOM Report オプション Ver.7.0

  アーカイブデータベースに蓄積した監視結果の情報を、レポートとして出力できるオプション製品です。

第2章 インストール前の事前確認

2.1 Windows Update について

Windows Server 2008 R2、Windows Server 2012、Windows Server 2012 R2 および、Windows 7、Windows 8.1 については、BOM 7.0 を構成するコンポーネントをインストールする際に、以下の条件を満たしている必要があります。

- KB3118401 がインストールされていること
  https://support.microsoft.com/ja-jp/kb/3118401

条件を満たしていない場合、以下のような現象が発生することを確認しています。

- ✓ BOM 7.0 のインストール中に「サービス'BOM7Helper'(BOM7Helper)が開始できませんでした。」というエラーが発生して、インストールが失敗する。
- ✓ BOM アーカイブマネージャーや BOM コントロールパネルでエラーが発生し、正常に動作しない（メニューが表示されない、起動できないなど）。

※ Windows Server 2012 R2 及び Windows 8.1 については、"KB3118401"適用の前提条件となる複数のアップデートが存在します。
また、弊社では KB の後続関係について把握しておりません。
Windows Update の詳細については、OS の製造元にご確認ください。

2.2 旧 SR バージョンの BOM for Winodws Ver.7.0 へのリモート接続について

BOM 7.0 SR3 から以下のインスタンスには、BOM マネージャー、BOM コントロールパネルからリモート接続できません。
これらのインスタンスに接続する場合は、接続先のインスタンスについてもアップグレード等の方法で BOM 7.0 SR3 を導入してください。

- ✓ 「BOM for Windows Ver.7.0 BOM Helper サービス 修正モジュール (2017/9/5 公開)」が適用された BOM 7.0 SR 無しインスタンス
- ✓ すべての BOM 7.0 SR1 インスタンス
- ✓ 「BOM for Windows Ver.7.0 SR2 向けアップデートモジュール（201911） (2019/12/16 公開)」が適用されていない BOM 7.0 SR2 インスタンス

第3章 BOM 7.0 システム構成

本章では、一般的な BOM 7.0 の構成例をご説明しています。

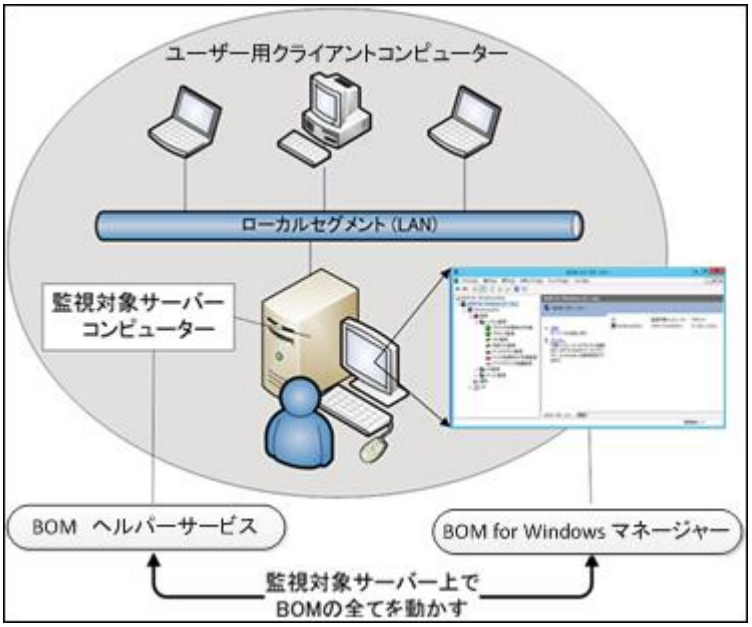
BOM 7.0 で監視を実行する場合、監視対象である Windows コンピューターに BOM 7.0 を導入した後、“システム設定ウィザード”と“初期設定ウィザード”により、ネットワークの設定や監視を行うコンピューターの設定を行う必要があります。以下の情報を参考に、システム構成の設定を進めてください。

3.1 最小構成（BOM 7.0 導入コンピューターのみを監視）

BOM 7.0 による環視の最小構成は、BOM 7.0 を導入したコンピューター自体の監視を行う“ローカル監視”です。この場合、BOM 7.0 を導入したコンピューターが監視対象コンピューターとなり、同時にそのコンピューター上で BOM 7.0 の動作設定を行うことができます。また構成では、監視設定や監視結果のログ等は、すべて監視対象である BOM 7.0 が導入されたコンピューターに保存されます。

ローカル監視は最小構成ではありますが、BOM 7.0 の監視機能がすべて動作します。

※ BOM 7.0 マネージャーを操作するために、監視対象コンピューターにディスプレイモニター、キーボード、マウス、DVD ドライブが接続されている必要があります。

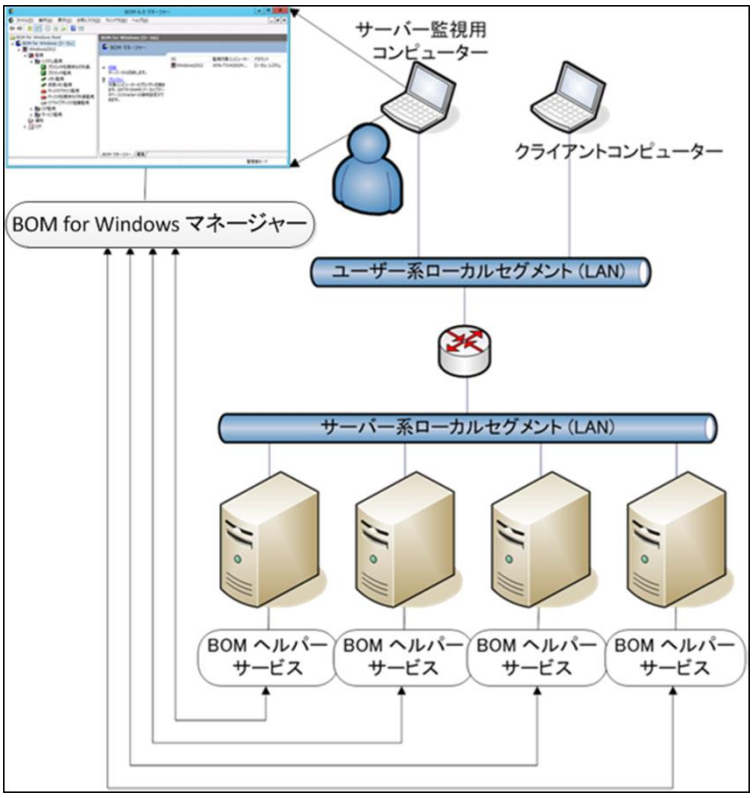


3.2 もっとも一般的な構成

組織内で稼動している Windows コンピューターは 1 台とは限らず数十台に及ぶ場合もあります。しかしそれらの運用・監視は、組織内 LAN を経由して、1～2 名のシステム管理者が統合的に実行するのが一般的です。

BOM 7.0 を監視対象コンピューターに標準構成でインストールした場合、BOM 7.0 マネージャーと BOM7Helper サービス、及び、BOM7Agent 監視サービスがインストールされます。これとは別に、システム管理者は任意のコンピューターに BOM 7.0 マネージャーをインストールし、LAN を経由して監視対象コンピューターで動作する BOM 7.0 の設定変更やステータスの確認を行うことが出来ます。

※　BOM 7.0 マネージャーや集中監視 Web サービスのみのインストールを行う場合には、ライセンスは必要ありません。BOM 7.0 のライセンスは、監視を実行するサービス“BOM7Agent”を実行する場合にのみ必要となります



3 .3 その他の構成

監視対象サーバーがデータセンターに設置されている場合、サーバー管理用コンピューターを、データセンターのネットワーク外に置く場合があります。この場合、BOMHelper サービスと BOM 7.0 マネージャーが通信を行うために、通信が行われるルーターやファイアウォールに対して、BOM が使用するポート番号での通信を許可しなければなりません。

3 .4 推奨する構成

Windows コンピューターの運用監視を行うための、システム管理者が使用するコンピューターは決まっているのが普通です。このため、BOM 7.0 マネージャーを稼動させるコンピューターのネットワーク上の位置は、セキュリティを保つため、以下の順を推奨します。

1. システム管理者が使用するコンピューターの IP アドレスを限定する。
2. 監視対象 Windows コンピューターと同じローカルセグメント（サブネット）からのみ Windows コンピューターへアクセスできるようにする。
3. 全てのコンピューター（どのコンピューターからでもアクセスできるようにする）

第4章 BOM 7.0 を使ってみよう

BOM 7.0 を評価していただくために、2 台の Windows Server 2012 コンピューターにそれぞれ BOM 7.0 をインストールしていただき、簡単な通知設定を行うシナリオを説明します。

シナリオは次のとおりです。

1. Windows Server 2012 コンピューターに BOM をインストールし、あらかじめ用意してあるサーバー監視の標準テンプレートを読み込んで監視し、その 1 項目のステータスを通知メールとして送信する監視設定を行います。
2. BOM 7.0 がインストールされている他の Windows Server 2012 をリモートから制御し、監視設定を行います。
3. BOM 7.0 がインストールされたコンピューターから、BOM 7.0 のインストールされていないコンピューターを“代理監視”します。

※ なお、BOM 7.0 は Windows クライアントにインストールする際はライセンスが必要ありません。(ただし 1 コンピューターにつき 1 インスタンス(1 監視サービス)のみが設定できます)。

4.1 Windows Server 2012 コンピューターに BOM 7.0 をインストールし通知を行う例

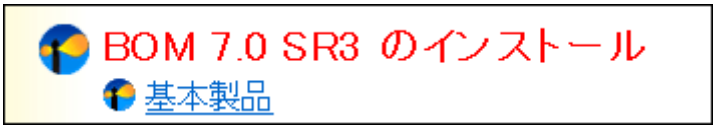
Windows Server 2012 がインストールされたWIN-NBIAMPVUFIDというコンピューター名のコンピューターにBOM 7.0をインストールし、初期設定を行ったのち、簡単な通知設定を行う手順を説明します。

4.1.1 インストールとシステム設定

ここでは監視対象コンピューターに BOM 7.0 を導入しその過程で基本的なテンプレートのインポートを行う手順をご説明します。

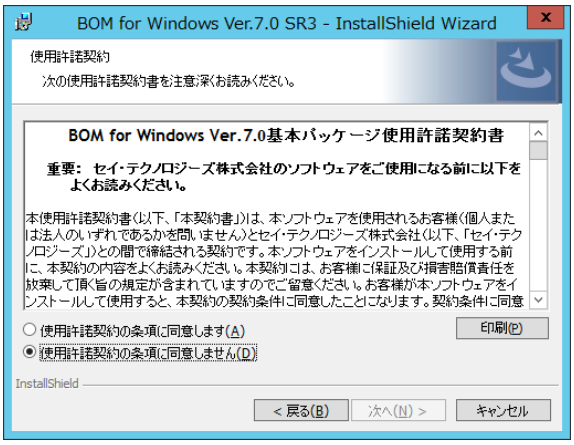
1. BOM 7.0 の媒体をコンピューターに挿入し、インストールランチャーを起動します

2. “BOM 7.0 SR3 のインストール”直下にある、“基本製品”をクリックし、セットアップウィザードを起動します



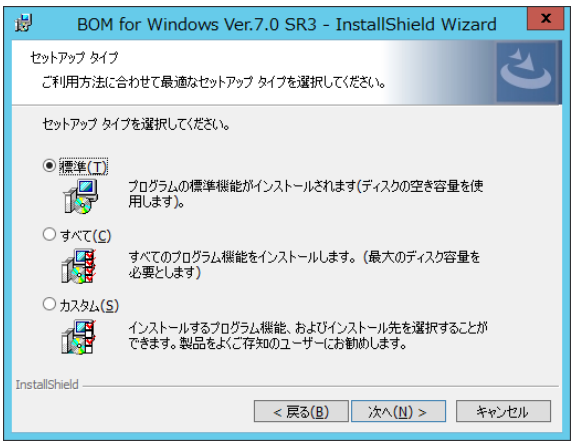
3. セットアップウィザードが起動しますので、[次へ]ボタンをクリックします

4. 使用許諾契約をお読みいただき、同意する場合は“使用許諾契約の条項に同意します”ラジオボタンをチェックし、[次へ]ボタンをクリックします。

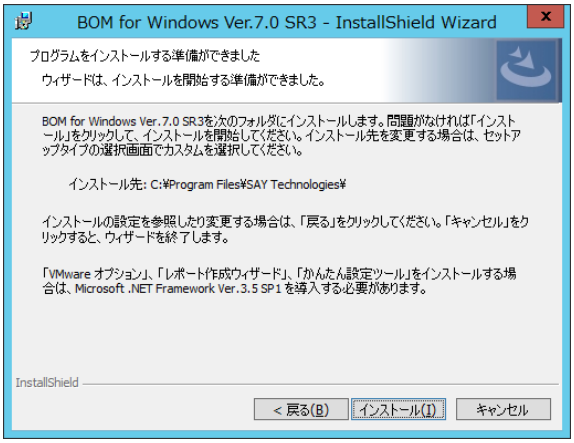


5. インストール種別は“標準”“すべて”または“カスタム”が選択可能ですが、ここでは標準機能のみインストールされる“標準”を選択し、[次へ]ボタンをクリックします。

※ “標準”タイプをクリックした場合、ヘルパーサービス、監視サービス、BOM 7.0 マネージャー(BOM 7.0 監視スケジューラを含みます)、コントロールパネル、テンプレートがインストールされます



6. [インストール]ボタンをクリックし、インストールを開始します



7. インストールが終了すると、以下のウインドウが表示されます。

続いて監視に必要なシステムの設定やインスタンスの設定を行いますので、画面中のチェックボックスは初期値のままで[完了]ボタンをクリックします。

※ “監視サービスをファイアウォールの例外に追加” チェックボックスを有効にすることにより、BOM 7.0 がコンソールとの通信に使用する BOM Helper Service が、OS の Windows ファイアウォールに例外として設定されます

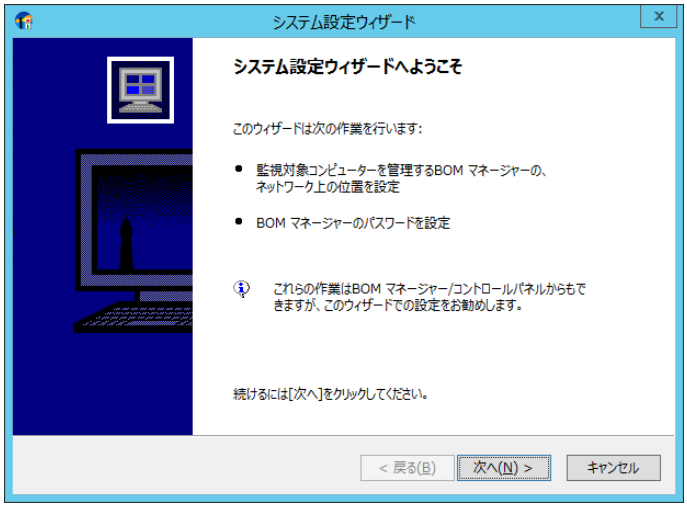
例外設定は、次のプロファイルに対して実施されます

・ドメイン・プロファイル

・プライベート・プロファイル

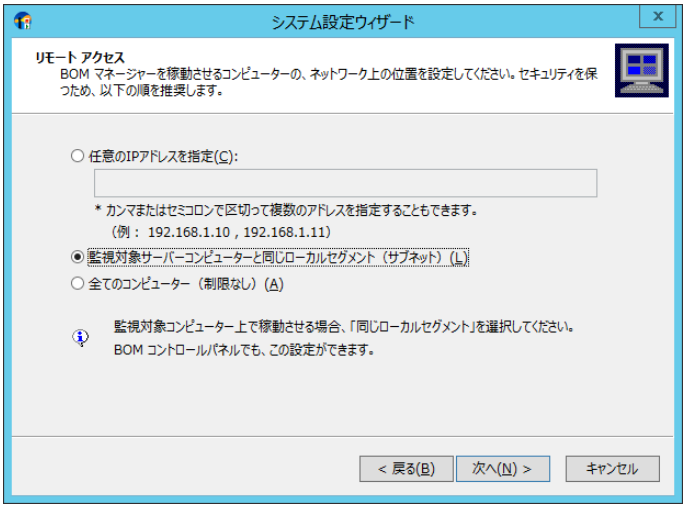
・パブリック・プロファイル

8. Readme と、システム設定ウィザードが起動しますので、システム設定ウィザードを前面に表示し[次へ]ボタンをクリックします。

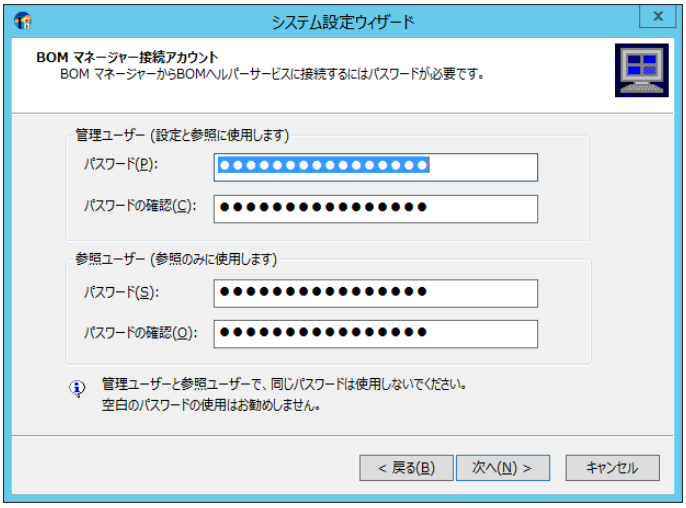


9. インストールした BOM 7.0 に対してリモート接続するウインドウが表示されます。

BOM ヘルパーサービスへの接続を許可する範囲を設定し、[次へ]ボタンをクリックします。



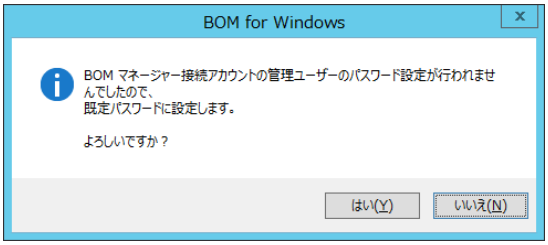
10. BOM 7.0 マネージャーから BOM ヘルパーサービスへ接続するパスワードを入力し[次へ]ボタンをクリックします。

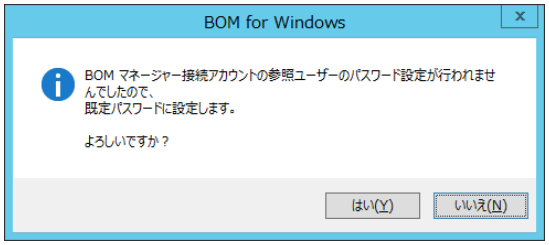


※　管理ユーザー及び参照ユーザーの初期パスワードは“bom”です。ウインドウで設定を変更しない場合、初期パスワードが設定されます

※　パスワードは英数半角で 16 文字以内です。セキュリティ確保のため、パスワードを変更することを推奨致します

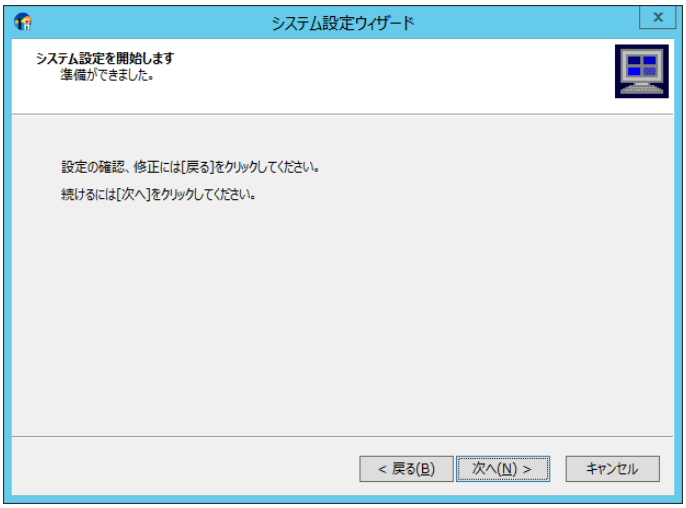
パスワードを変更せずに[次へ]ボタンをクリックした場合、確認のために以下のウインドウが表示されます。設定に問題が無い場合には[はい]ボタンをクリックし次のステップへ進みます



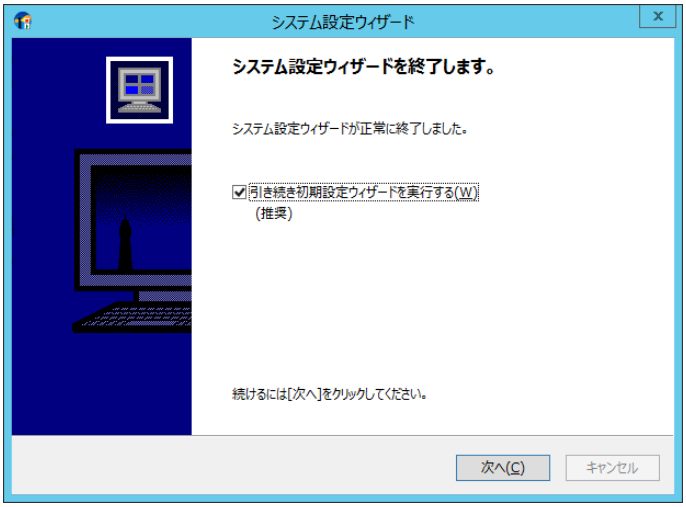


11. [次へ]ボタンをクリックしシステム設定を適用します。

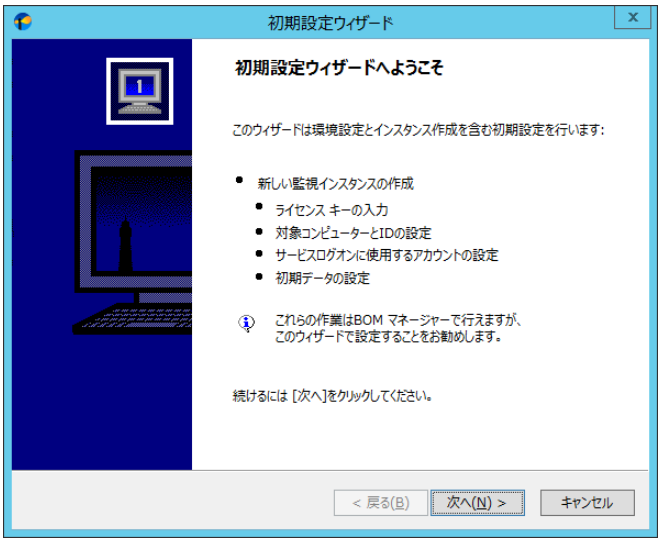
設定内容の確認や修正を行う場合には、[戻る]ボタンをクリックし前のウインドウを表示してください。



12. システム設定が終了しました。次のステップで初期設定ウィザードによるインスタンスの設定を行いますので[次へ]ボタンをクリックします。

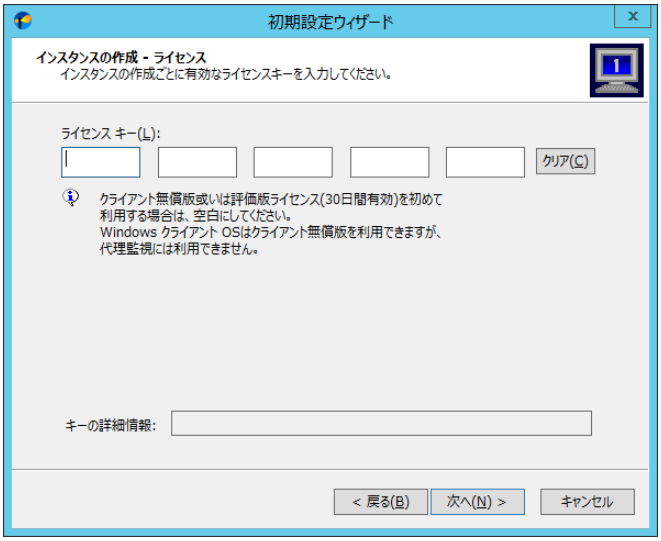


13. 初期設定ウィザードが起動します。[次へ]ボタンをクリックします。



14. ライセンスの入力ウインドウが表示されます。

ライセンスをご購入済みの場合は、“ライセンスキー”に入力し[次へ]ボタンをクリックします。



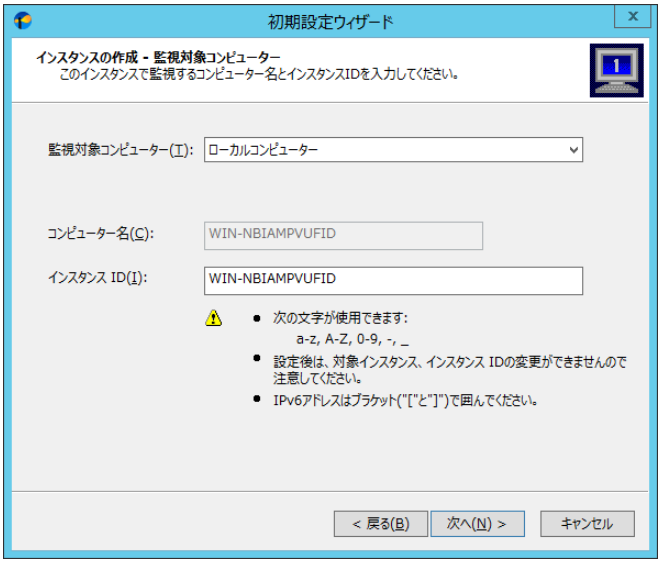
※ Windows サーバーへのインストール時に、ライセンスキーを未入力のままで[次へ]ボタンをクリックすると、30 日間有効の評価版ライセンスが自動的に適用されます

※ Windows クライアントへのインストール時に、このウインドウでライセンスキーの入力を行わずに[次へ]ボタンをクリックすると、クライアントライセンスが自動的に適用されます。クライアントライセンスは、BOM のライセンス契約上 BOM 7.0 をご購入済み（サーバーライセンスを保持している）場合にのみ使用を許可しておりますのでご注意ください。また、クライアントライセンスでは、代理監視インスタンスの作成はできません

※ サーバーライセンスをお持ちでない場合、Windows クライアントへの導入は BOM の評価版のみに限定致します。実運用を行うには、サーバーライセンスが必要です

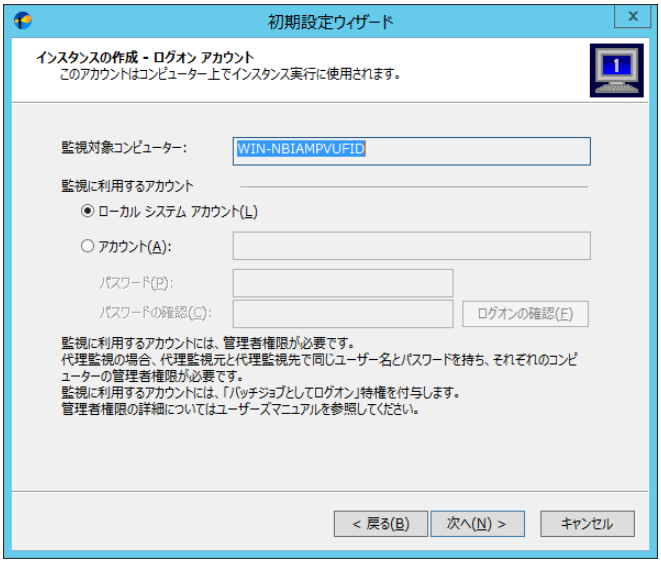
15. 監視対象コンピューターの種類と監視対象コンピューター及びインスタンス名を指定します。

ここでは初期値のまま[次へ]ボタンをクリックします。



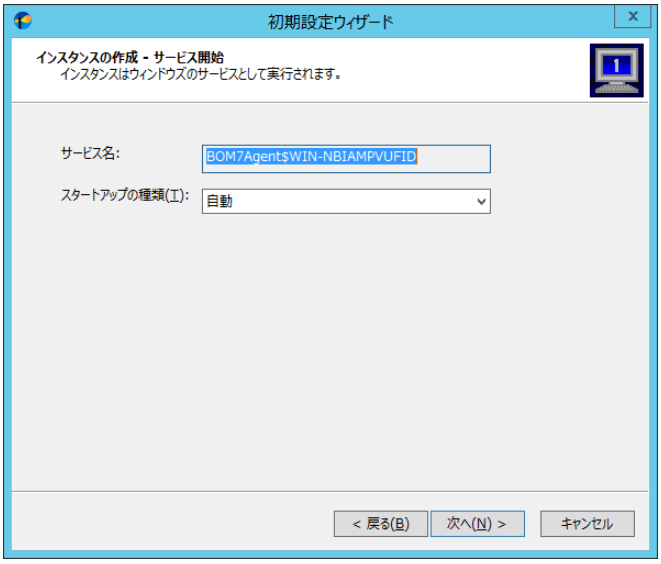
16. 監視に使用するアカウントを指定します。

ここでは初期値のまま[次へ]ボタンをクリックします。



17. 監視サービス（BOM7Agent）のスタートアップの種類を設定します。

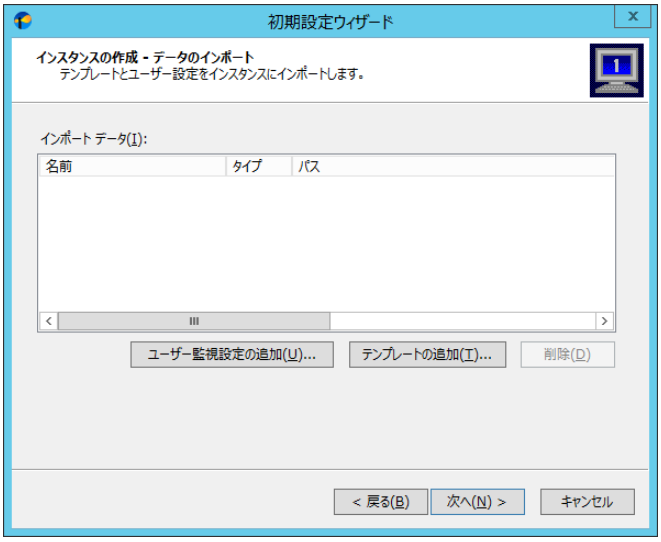
ここでは初期値のまま[次へ]ボタンをクリックします。



18. データのインポートウィンドウが表示されます。

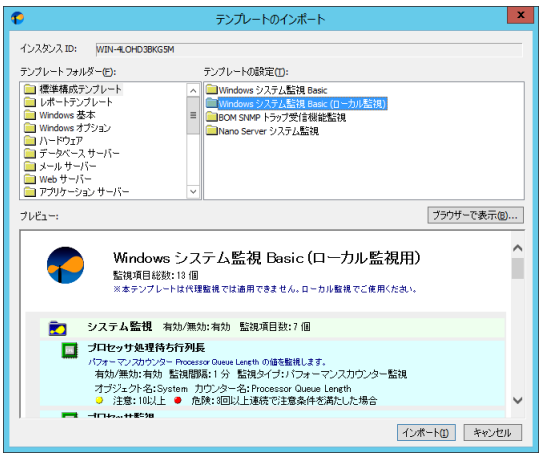
ここで標準的な Windows 監視テンプレートのインポートを行いますので[テンプレートの追加]ボタンをクリックします。

※　過去の BOM 製品用に公開されている監視テンプレートや、それらの製品からエクスポートされた監視設定は互換性がない為、インポートを行うことはできません

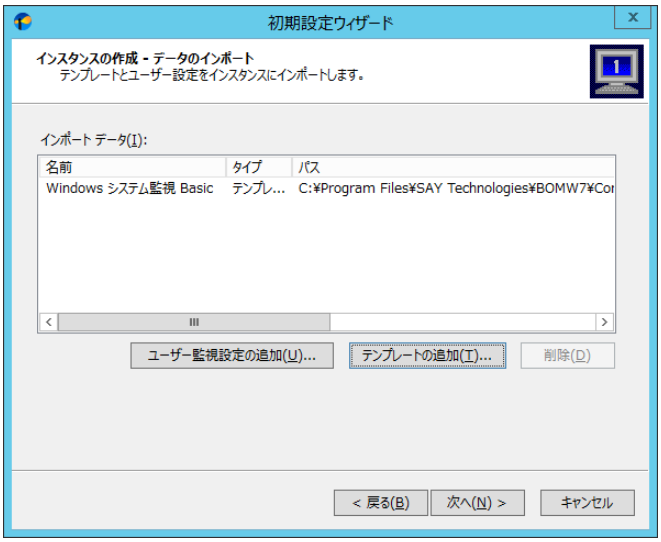


19. 標準構成テンプレート内の「Windows システム監視 Basic (ローカル監視用)」をクリックします。

プレビューウィンドウに監視設定の内容が表示されますので、内容を確認後、[インポート]ボタンをクリックします。

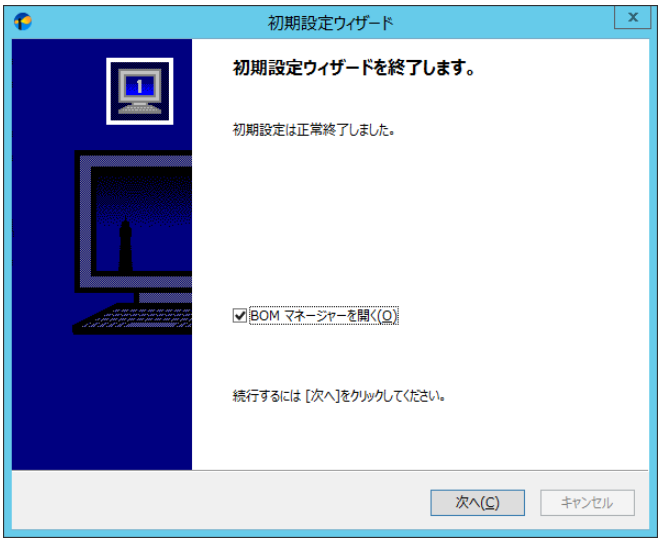


20. インポート対象として「Windows システム監視 Basic (ローカル監視用)」が選択されたことを確認し、[次へ]ボタンをクリックします。



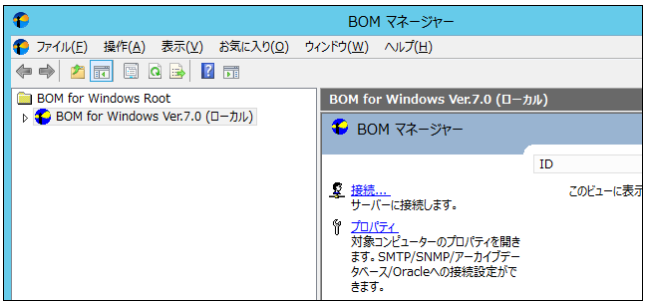
21. インスタンス作成の実行ウインドウが表示されます。設定内容に間違いがないことを確認し、[開始]ボタンをクリックします。

22. [次へ]ボタンをクリックします。以上でインストールと Windows の監視基本設定は完了しました。



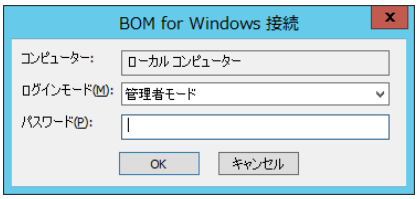
23. BOM 7.0 マネージャーが起動します。

画面上の左側（以下スコープペイン）の“BOM for Windows Ver.7.0”をクリック後、右側（以下リザルトペイン）にある“接続”リンクをクリックします

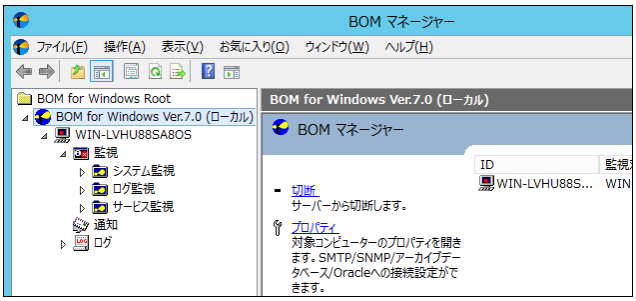


24. 接続パスワード入力ウインドウが表示されます

BOM7 ヘルパーサービスの接続初期パスワード“bom”または、インストール実行中に設定した管理者モードのパスワードを入力し、[OK]ボタンをクリックします。



25. スコープペインでスナップイン“BOM for Windows Ver.7.0（ローカル）”を展開し、インスタンスが作成されていることを確認後、インスタンス内にテンプレートがインポートされていることを確認します。

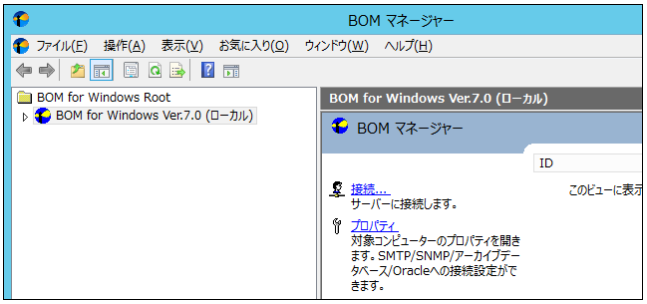


ここまでの設定で、テンプレート“Windows システム監視 Basic”を使用した基本的な監視の実行が可能となります。各テンプレート内に設定済みのしきい値は、弊社環境で作成したしきい値ですので、実際の運用環境に合わせて適宜変更してください。

4.1.2 通知の設定

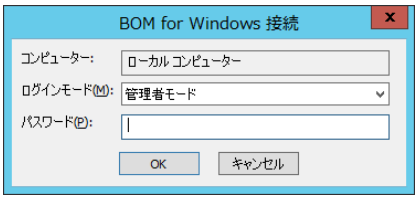
ここでは、前項でインストールした環境で、メモリの空き容量を監視し、空き容量が一定以下になったときに通知メールを指定メールアドレスに送信する監視設定をご説明します。

1. BOM 7.0 マネージャーを起動し、画面上の左側（以下スコープペイン）の“BOM for Windows Ver.7.0”をクリック後、右側（以下リザルトペイン）にある“接続”リンクをクリックします

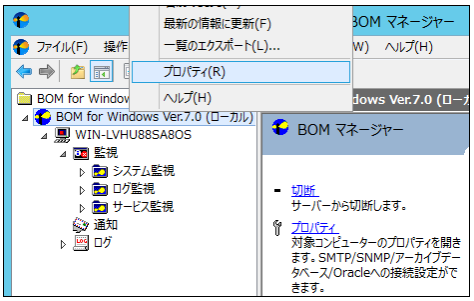


2. 接続パスワード入力ウインドウが表示されます

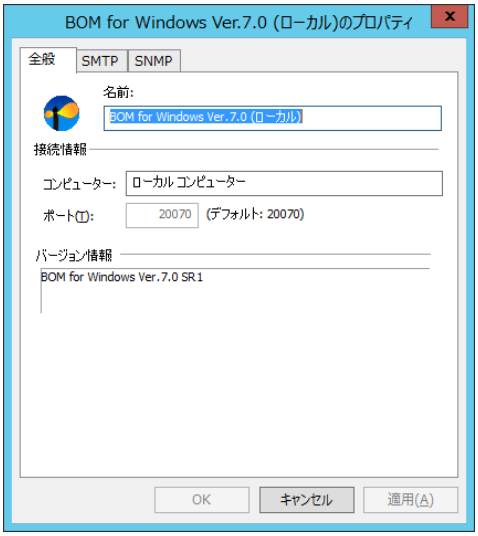
BOM7 ヘルパーサービスの初期パスワード“bom”、または、インストール実行中に設定した管理者モードのパスワードを入力し、[OK]ボタンをクリックします。



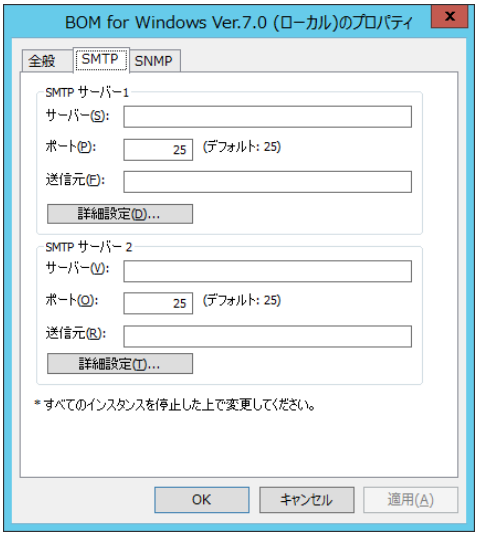
3. スコープペインの“BOM for Windows Ver.7.0(ローカル)”を右クリックし、“プロパティ”をクリックします。



4. 「SMTP」タブをクリックします。

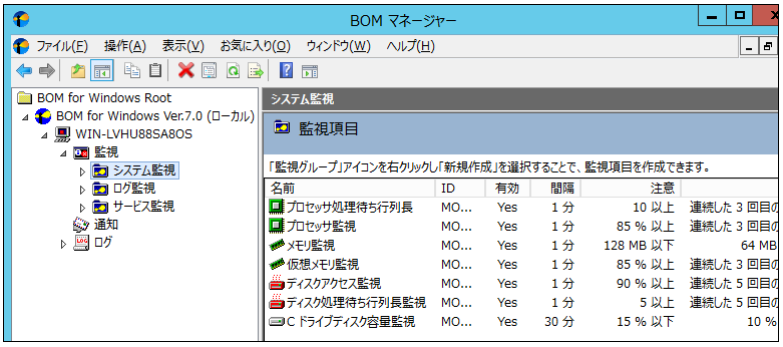


5. “SMTP サーバー1”に、メールを送信するための SMTP サーバーを指定し、“送信元”に From:に相当するメールアドレスを入力し、[OK]ボタンをクリックします。

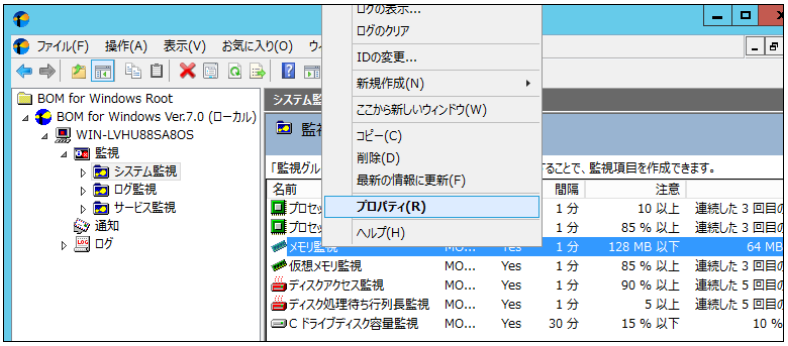


※　SMTP サーバーで認証設定が必要な場合には[詳細設定]ボタンから認証方法及び設定を行ってください。詳細は‘BOM for Windows Ver.7.0 ユーザーズマニュアル’を参照ください

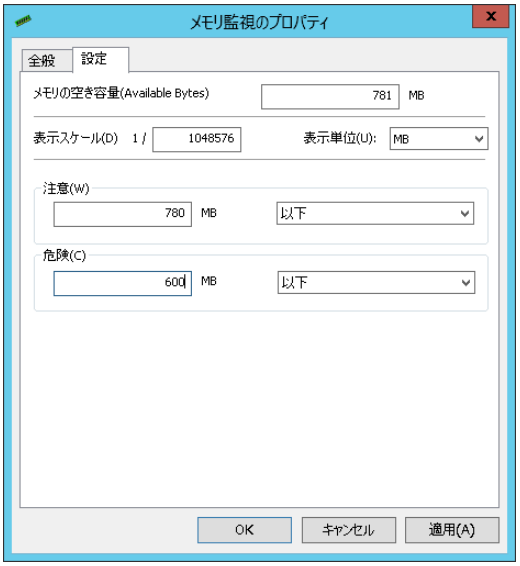
6. スコープペインを展開し、監視インスタンス内のノードを“監視”を展開します、さらに“システム監視”グループをクリックしリザルトペインにグループ内に含まれる監視項目を表示します。



7. “メモリ監視”の右クリックメニューから“プロパティ”をクリックします。

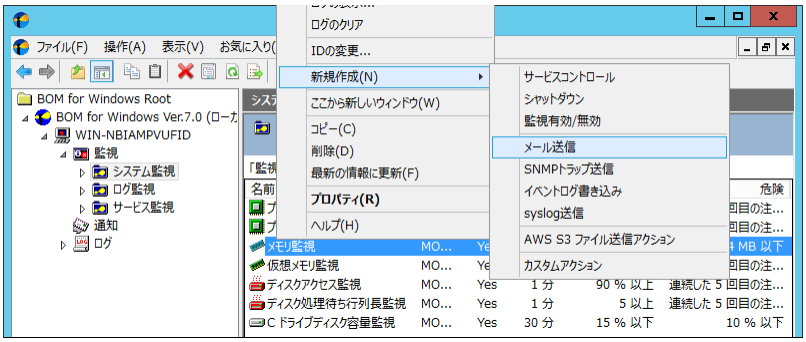


8. 「設定」タブをクリックし、“メモリの空き容量”の値を参考にしながら、“注意”と“危険”ステータスを発生させる値を入力します。たとえばこの例では、781MB の空きメモリがあるので、780MB 以下で注意ステータスにすることにします。この状態で監視を始めると、メモリの空き容量が増加しない限りは注意ステータスになります。設定終了後[OK]ボタンをクリックします。

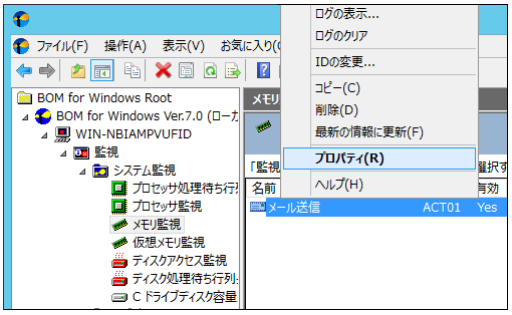


9. メールを送信するための“アクション項目”を作成します。

システム監視グループをクリックし、リザルトペインに表示された監視項目“メモリ監視”の右クリックメニューから、“新規作成”“メール送信”をクリックします。

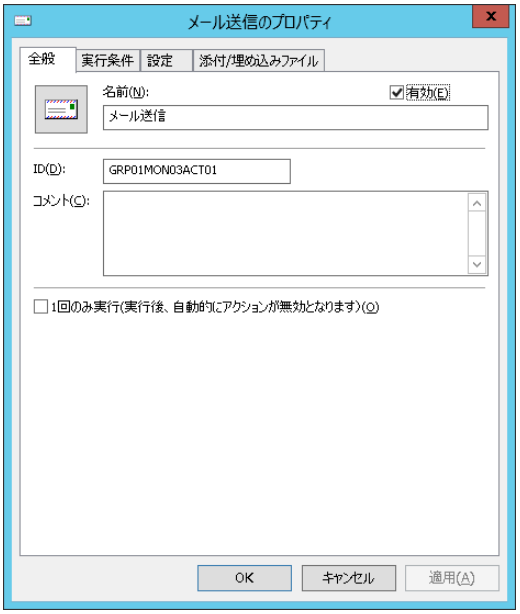


10. システム監視グループをクリック後、メモリ監視を選択し、リザルトペインに表示されたアクション項目“メール送信”の右クリックメニューから、“プロパティ”をクリックします。



11. メール送信アクションのプロパティシートが開きます。

「実行条件」タブをクリックします。



12. 「実行条件」タブ

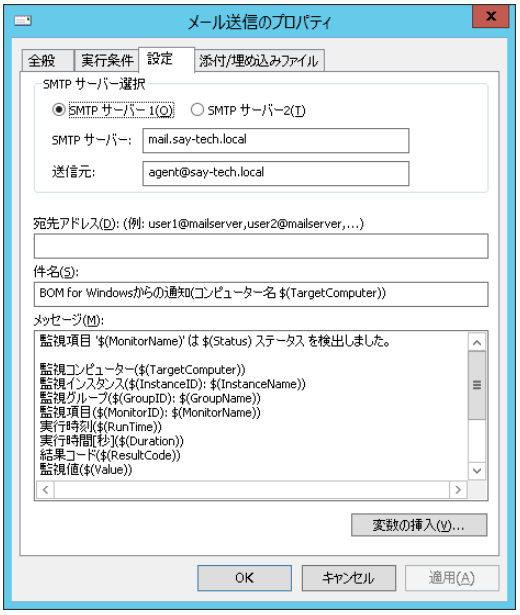
デフォルトの設定はメモリ監視の監視結果が正常ステータス以外であればメール送信される設定になっています。また、実行頻度が“変化時のみ”になっていますので、同じステータス(たとえば注意ステータスだけ)が続く場合には 2 回目からはメール送信しません。

実行条件を確認後、「設定」タブをクリックします。

13. 「設定」タブ

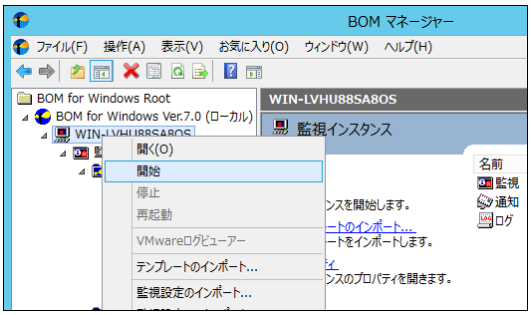
“SMTP サーバー選択”本章の項番 5 で設定した SMTP サーバー設定を選択します。“宛先アドレス”には、メールの送信先として有効なメールアドレスを入力します。“件名”および“メッセージ”は、初期値のままとします。

※　件名やメッセージ欄にある文字列“$(xxxxx)”は、BOM 7.0 で定義されている変数です。メール送信の実行時に、定義された文字列が挿入されます



14. 監視を開始します。

監視インスタンスを右クリックし、“開始”をクリックします。インスタンスのアイコンが から に変われば、監視が開始されたことを示します。



15. メールの確認

最初の監視が行われ、監視項目“メモリ監視”が“注意”ステータスになり、それを検知して指定アドレスにメールが送られます。メールは次のような内容です。

Subject:

BOM for Windows からの通知(コンピューター名 WIN-NBIAMPVUFID

Body:

監視項目 'メモリ監視' は 注意 ステータス を検出しました。

監視コンピューター(WIN-NBIAMPVUFID)

監視インスタンス(WIN-NBIAMPVUFID: WIN-NBIAMPVUFID)

監視グループ(GRP01: システム監視)

監視項目(GRP01MON03: メモリ監視)

実行時刻(2017/10/31 13:28:49 +0900)

実行時間[秒](0.120)

結果コード(0)

監視値(319 MB)

Powered by BOM.

<GRP01MON03ACT01.BOM@WIN-NBIAMPVUFID>

On 2017/10/31 13:28:51 +0900

以上が、BOM 7.0 を使った簡単な通知の例です。メールが受信できない場合には以下の点をご確認ください。

- SMTP サーバーやメール送信先などの各設定に誤りが無いか
- 監視項目のステータスが、アクションの実行条件に指定したステータスとなっているか
- アクション項目の“前回の結果”が“失敗”になっていないか

※ “失敗”となっている場合、スコープペインの“ログ-ヒストリ-アクション”ノードにログが記録されていますので、ご確認ください

4.2 リモート接続の設定

BOMでは、ほかのコンピューターにインストールしたBOMのインスタンスをリモートから制御できます。ここでは、2台のコンピューターを使用してリモート接続を行う設定の例をご説明します。

1 台は先ほど BOM をインストールしたコンピューターを使用し、もう一台は‘4 .1 .1 インストールとシステム設定’と同様の手順で Windows Server 2012 R2 のコンピューターに BOM のインストールを行った WIN-NBIAMPVUFID というコンピューターを使用します。

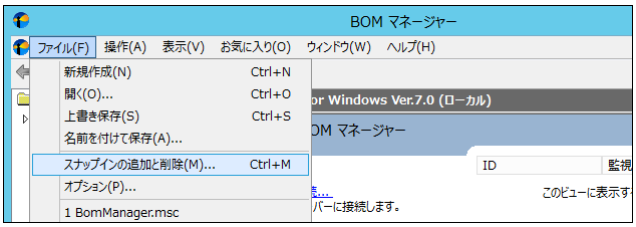
WIN-NBIAMPVUFID から WIN-AK6IRSSU0HL のリモート接続を行う例について説明します。

なお、リモート接続を行う際は、Windows ファイアウォールでリモート側の TCP の 20070 番ポート（既定値）の通信を許可する設定を行う必要があります。

4.2.1 スナップインの追加

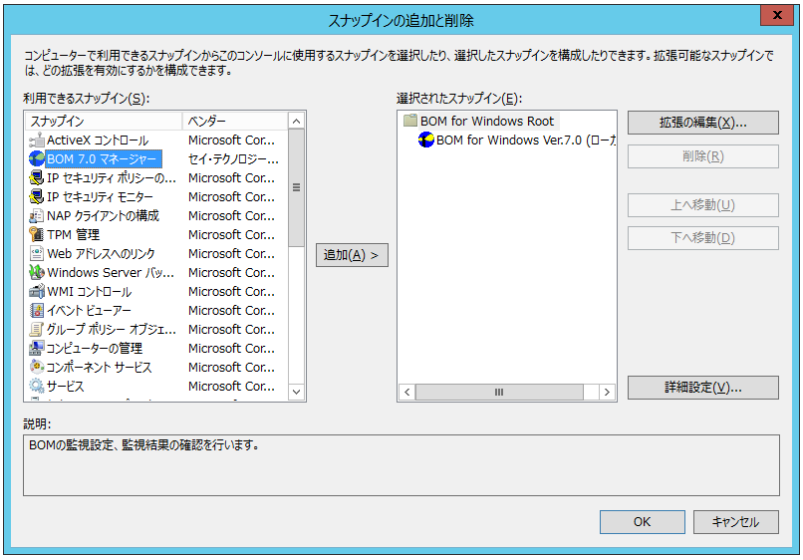
リモート接続は MMC に“BOM 7.0 マネージャー”スナップインを追加することで可能になります。この項ではスナップインの追加手順についてご説明します。

1. BOM 7.0 マネージャーを起動し、“ファイル”メニューの“スナップインの追加と削除”をクリックします。

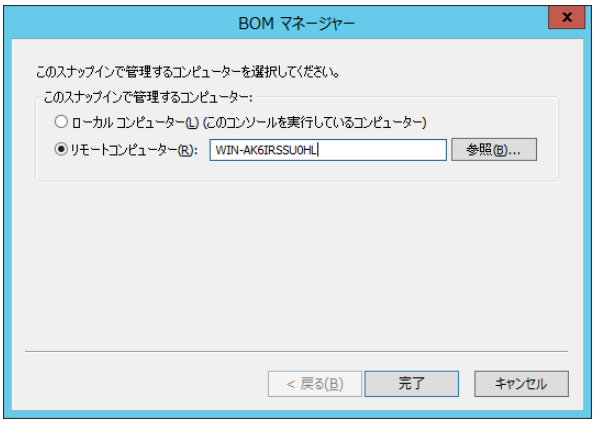


2. “スナップインの追加と削除”ウインドウが表示されます。

“BOM 7.0 マネージャー”をクリックし[追加]ボタンをクリックします。

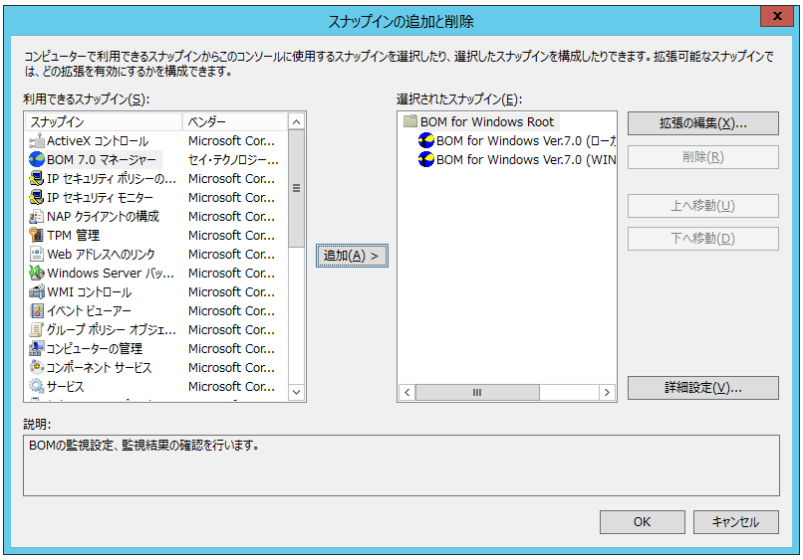


3. “リモートコンピューター”に、リモート接続対象コンピューター名（この例では WIN-AK6IRSSU0HL）を入力し、[完了]ボタンをクリックします。

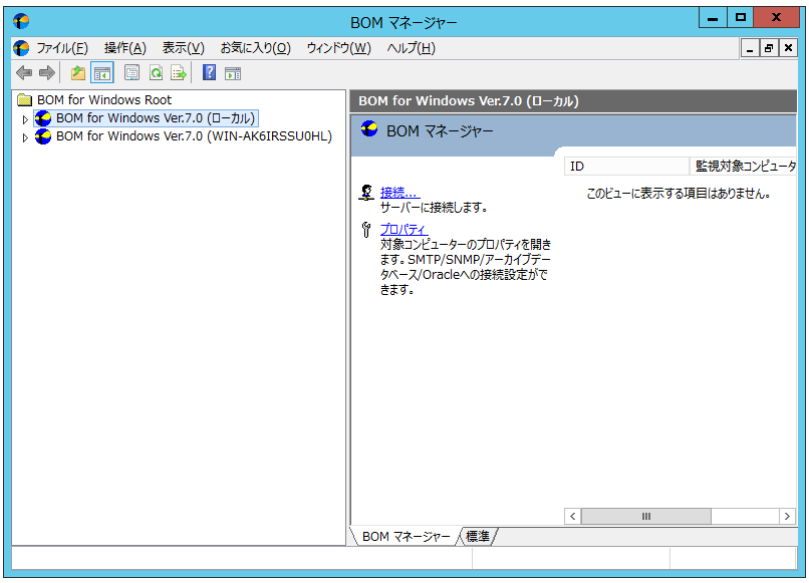


※ “リモートコンピューター”には、名前解決ができるコンピューター名か IP アドレスを入力します

4. スナップインが追加されました。[OK]ボタンをクリックし、ウインドウを閉じます。



5. BOM 7.0 マネージャーで、スナップインが追加されていることを確認します。

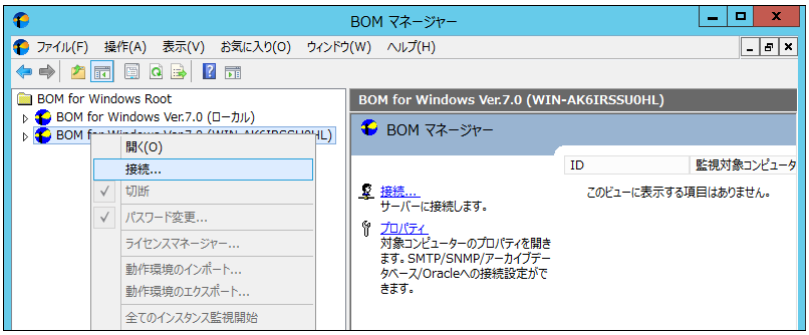


※　追加設定したコンソール設定情報を保持したい場合には、コンソール終了時にコンソール設定（MMC）を保存しておく必要が有ります

4.2.2 リモート接続の実行

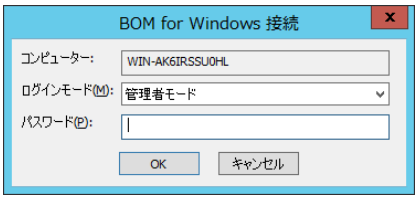
前項で追加したスナップインに接続することにより、BOM 7.0 マネージャーが動作するコンピューター以外のコンピューターにインストールされた BOM 7.0 へ接続を行います。

1. “BOM for Windows Ver.7.0 (WIN-AK6IRSSU0HL)”のアイコンをクリックし、リザルトペインのリンク“接続”をクリックします。

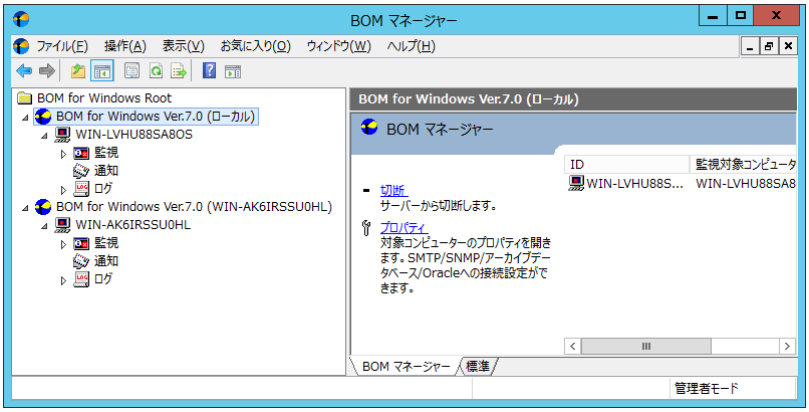


2. 接続パスワード入力ウインドウが表示されます。

   BOM7 ヘルパーサービスの初期パスワード“bom”、または、インストール実行中に設定した管理者モードのパスワードを入力し、[OK]ボタンをクリックします。



3. スナップインを展開し、リモートコンピューターの情報が表示されることを確認します。



リモートコンピューターの BOM 7.0 と正常に接続することが出来ました。接続完了後はローカルコンピューターと同様に設定操作や、ステータスの確認、監視ログの確認が可能です。

※ リモート接続で接続設定を変更した場合や監視ステータスの確認やログの確認を行った場合でも、接続先コンピューターの監視設定や監視ログはリモート接続先にのみ保存されていますので、ご注意ください

4.3 代理監視

BOM 7.0 の監視形態の一つとして『代理監視』があります。『代理監視』では、BOM をインストールしていない他のコンピューターの監視を、ネットワーク経由で実行することが可能です。重要な本番サーバーなどで追加インストールを行えない状態の場合、この機能を利用して監視を行います。

この項では、BOM をインストールした Windows Server 2012 のコンピューター（WIN-NBIAMPVUFID）から、もう一台の BOM がインストールされていない Windows Server 2012 のコンピューター（WIN-AK6IRSSU0HL）を代理監視する例をご説明します。

BOM 7.0 のライセンスは、監視対象の OS1 つにつき 1 ライセンス必要とすることを基本としております。従いまして、ローカル監視と代理監視を同時に行いたい場合には、合計 2 ライセンスが必要になります。

評価版ライセンスのみでこの項でご説明する構成をお試しいただく場合、または、BOM 7.0 のライセンスを一つしかご購入いただいていない状態でお試しいただく場合には、本マニュアルの‘付録’に記載されております追加の評価版ライセンスキーをご利用ください。

4.3.1 事前準備

A. 代理監視に使用するアカウントの準備

代理監視を設定する前に、代理監視用のアカウントを用意する必要があります。以下の条件にすべて適合したアカウントをご用意ください。

- BOM 7.0 をインストールしたコンピューター（WIN-NBIAMPVUFID）と代理監視先（WIN-AK6IRSSU0HL）のコンピューターで共通のユーザー名であり、かつ、パスワードも同一であること。
- 両方のコンピューターで Administrators グループに所属しているアカウントであること。
- ここでご説明する例では、代理監視用アカウントとして上の条件に適合したアカウントとして“bomadmin”を両方のコンピューターに設定しました。

B. ファイアウォールの設定

代理監視は、ネットワーク経由で監視対象コンピューターにログオンを行い、Windows 標準の機能を利用して監視データの収集を行います。Windows ファイアウォール、セキュリティが強化された Windows ファイアウォール、サードパーティー製のファイアウォール製品などを監視元と監視対象サーバー間で運用している場合、この 2 点間の通信について、ファイアウォールを無効に設定することを推奨します。

セキュリティ上の問題で、ファイアウォールを無効にできない環境では、弊社 Web 上に掲載されている以下のページで最新情報をご参照いただき、例外を設定してください。

[サポート情報番号]：000160：セキュリティ製品のファイアウォール機能による通信遮断について

http://www.say-tech.co.jp/support/bom-for-windows/post-45/index.shtml

C. その他の設定

代理監視を実行する際の、上記以外の設定については弊社 Web 上に掲載されている以下のページで最新情報をご参照ください。

[サポート情報番号]：000188：代理監視にてリモートコンピューターを監視する場合

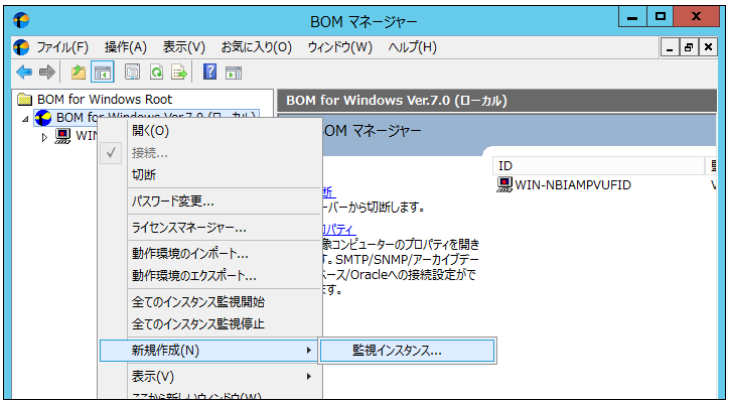
http://www.say-tech.co.jp/support/bom-for-windows/post-55/index.shtml

4.3.2 代理監視の設定

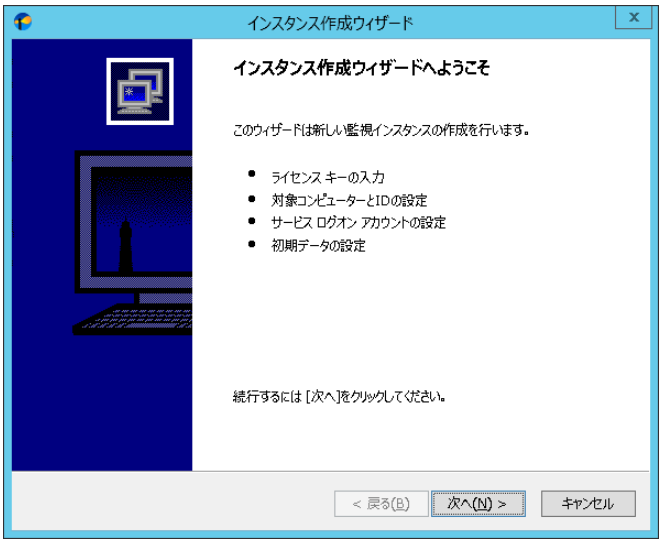
以下に代理監視を行う監視インスタンスの作成手順をご説明します。

1. インスタンスの新規作成

“BOM for Windows Ver.7.0(ローカル)”アイコンを右クリックし、“新規作成”-“監視インスタンス”をクリックします。



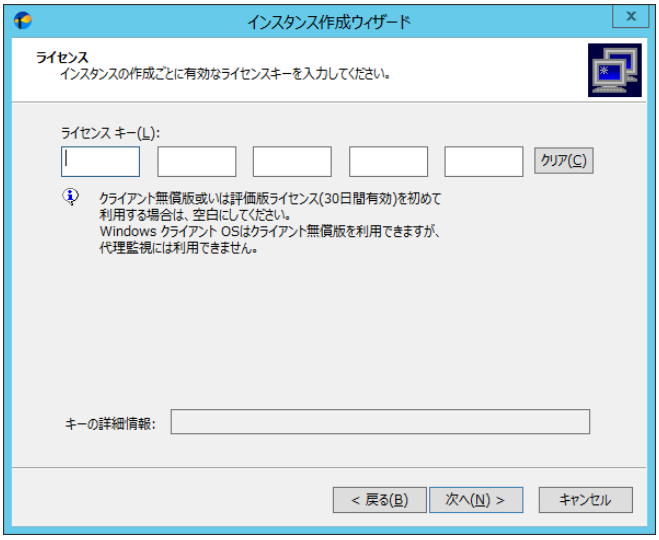
2. “インスタンス作成ウィザード”が起動しますので[次へ]ボタンをクリックします。



3. “ライセンス”ウインドウが開きます。

用意した正規版ライセンス、又は、評価版ライセンスキーを入力し、[次へ]ボタンをクリックします。

※　追加の評価版ライセンスキーは本マニュアルの‘第 7 章　付録’を参照ください。

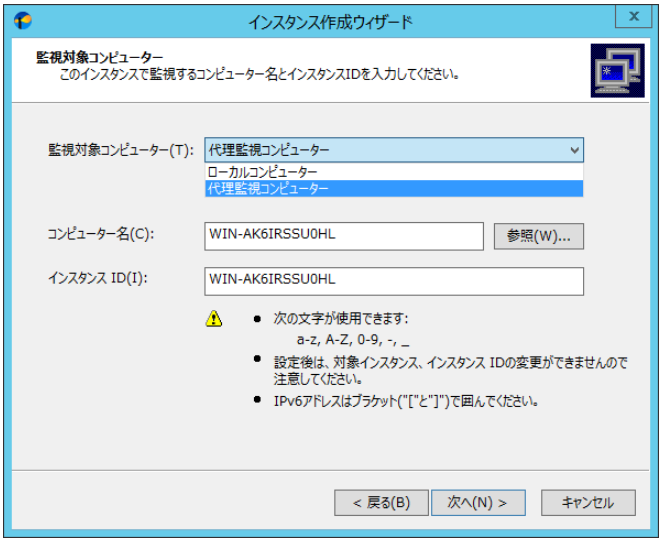


4. 監視対象コンピューターの設定を指定します。

“監視対象コンピューター”ポップアップメニューで“代理監視コンピューター”を選択し、代理監視対象コンピューター名を入力した後、[次へ]ボタンをクリックします。

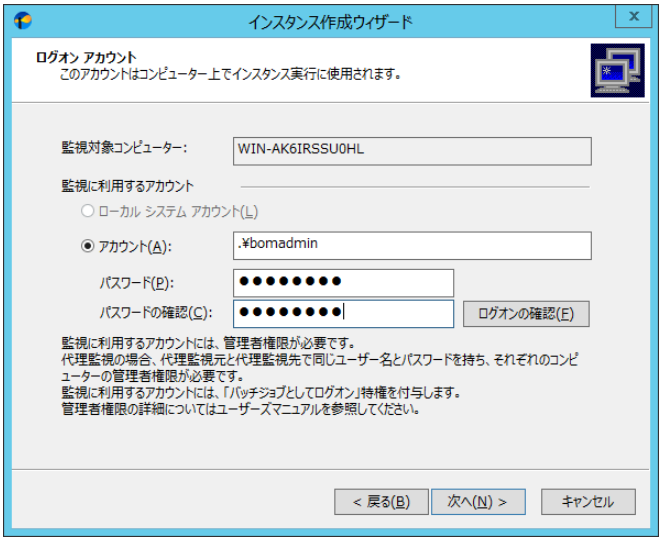
※　“コンピューター名”には、名前解決できるコンピューター名か IP アドレスを入力します

※　“インスタンス ID”は変更可能です



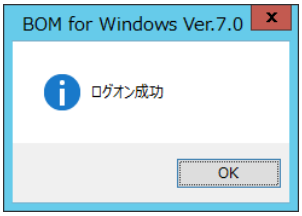
5. 監視に利用するアカウントを設定します。

‘4 .3 .1 事前準備’で設定したアカウント情報を入力して[次へ]ボタンをクリックします。



6. アカウントの確認

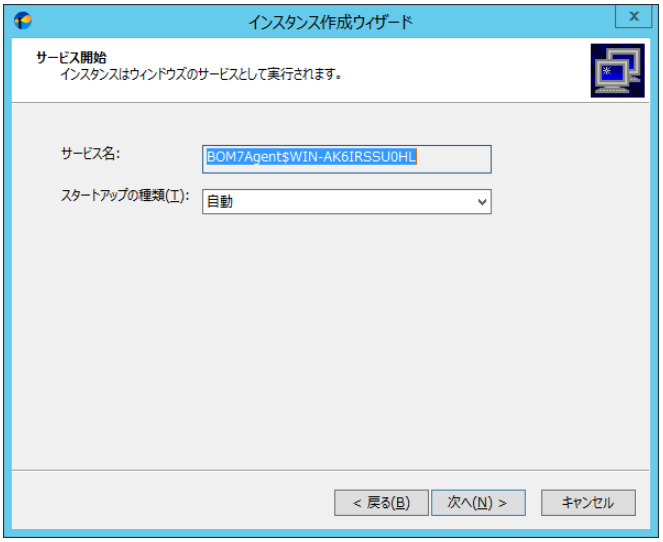
ローカルコンピューター（BOM がインストールされているコンピューター）へのログオン状況が確認され、成功した場合に以下のダイアログが表示されます。[OK]ボタンをクリックします。



※ ここではローカルコンピューターへのログオンのみを確認しています。代理監視対象コンピューターへのログオン成功を確認したものではありません。ログオンに失敗する場合は‘4 .3 .1 事前準備’を再確認してください。

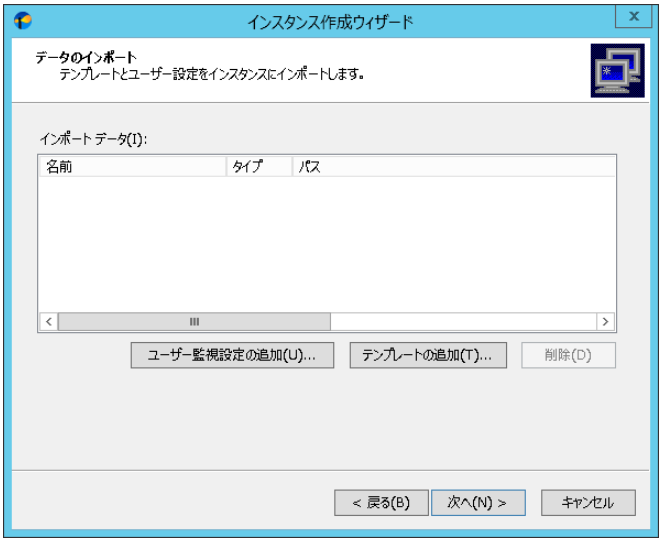
7. スタートアップの種類を設定します。

監視サービスのスタートアップの種類を設定します。初期値（自動）のまま[次へ]ボタンをクリックします。



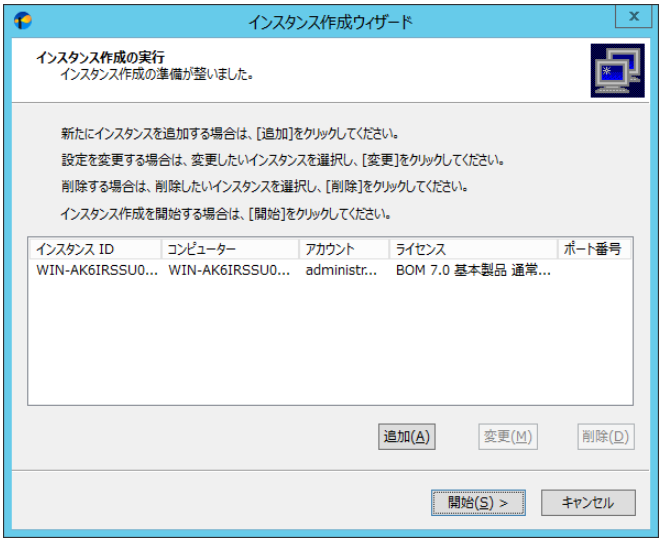
8. “データのインポート”ウィンドウが開きます。

ここでは何も指定せず[次へ]ボタンをクリックします。

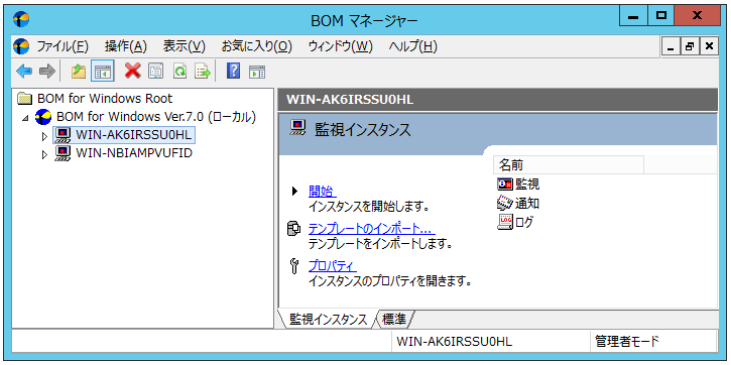


9. “インスタンス作成の実行”ウインドウが開きます。

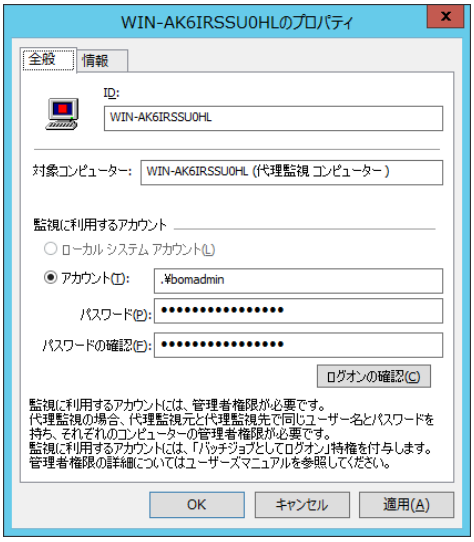
内容を確認後、[開始]ボタンをクリックし、代理監視インスタンスを作成します。



10. BOM 7.0 マネージャーに監視インスタンス“WIN-AK6IRSSU0HL”が追加されたことを確認します。



11. 監視インスタンス“WIN-AK6IRSSU0HL”のプロパティを開き、「全般」タブの対象コンピューター欄に“（代理監視コンピューター）”と表示されていることを確認します。



以上で代理監視インスタンスの作成が完了しました。監視設定や通知の設定は、ローカル監視インスタンスを同様に操作可能です。

第5章 BOM 7.0 のインストール

Windows コンピューターに BOM 7.0 及びオプション製品を新規インストールする手順を、以下にご説明します。

BOM 7.0、オプション製品、及び関連ソフトウェアの新規インストールについて、以下の手順に沿って作業を行ってください。

なお、インストール作業は管理者権限が必要となりますので、管理者権限を持つアカウントにてログオンの上、作業を行ってください。

※ BOM 7.0 を導入済みの環境へオプション製品の追加インストールを行う手順については、各オプション製品のマニュアルをご参照ください

※ BOM 7.0 マネージャーを操作するために、監視対象コンピューターにディスプレイモニター、キーボード、マウス、インストールメディアの入ったドライブが接続されている必要があります

5 .1 プログラムのインストール

5 .1 .1 標準インストール

ここでは監視対象コンピューターに BOM 7.0 基本製品を標準インストールする手順をご案内いたします。

基本製品の標準インストールは、BOM 7.0 をインストールしたコンピューター自体の監視を行う場合の最小構成のインストールで、以下のコンポーネントがインストールされます。

- 監視サービス（BOM7Agent）
- BOM 7.0 コントロールパネル
- BOM 7.0 マネージャー（BOM 7.0 監視スケジューラを含みます）
- 監視テンプレート

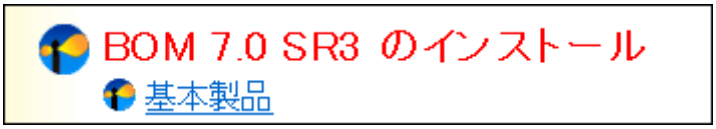
標準インストールでは、新規インストール時に基本製品に加えて１つのオプション製品のインストールを同時に行うことが出来ます。インストールランチャーの画面で、“基本製品”のリンクではなく、“Linux オプション”“Oracle オプション”“SQL Server オプション”“Citrix XenApp オプション”“VMware オプション”のいずれかのリンクをクリックすることにより、“基本製品”＋“選択したオプション製品”の構成で新規インストールが実行されます。

1. BOM 7.0 の媒体をコンピューターに挿入し、インストールランチャーを起動します。

   ※ メディアの自動起動が設定されていない場合には、Windows エクスプローラーでインストールメディアを開き、“autorun.hta”を起動してください

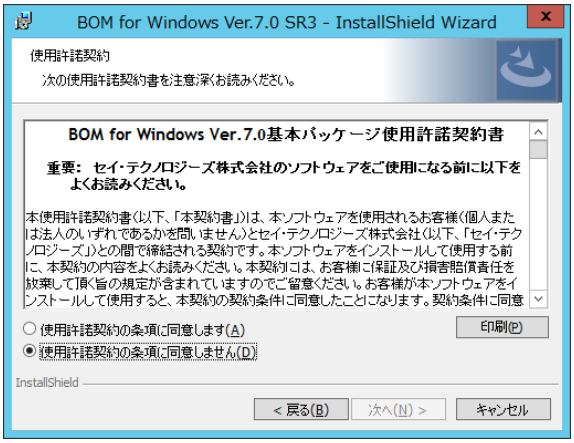
2. “BOM 7.0 SR3 のインストール”直下にある、“基本製品”をクリックし、セットアップウィザードを起動します

   ※ ここで“基本製品”ではなく、“Linux オプション”“Oracle オプション”“SQL Server オプション”“Citrix XenApp オプション”“VMware オプション”のいずれかのリンクをクリックすることにより、“基本製品”＋“選択したオプション製品”の構成で新規インストールが実行されます。



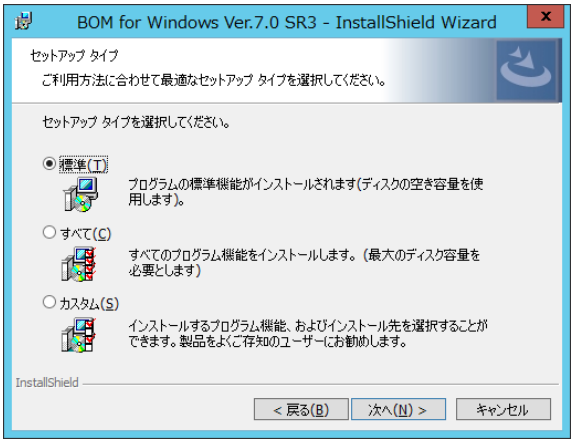
3. セットアップウィザードが起動しますので、[次へ]ボタンをクリックします。

4. 使用許諾契約をお読みいただき、同意する場合は“使用許諾契約の条項に同意します”ラジオボタンをチェックし、[次へ]ボタンをクリックします。

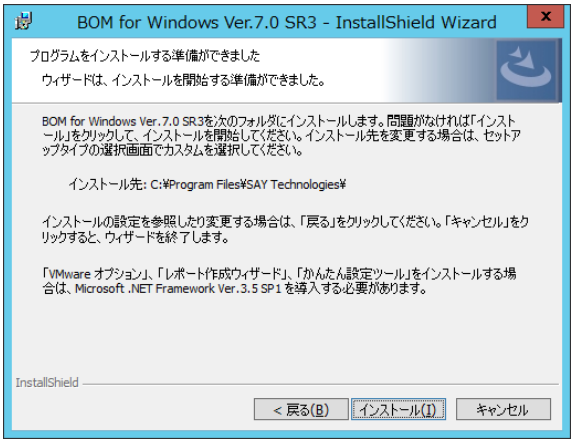


5. インストール種別は“標準”“すべて”または“カスタム”が選択可能ですが、ここでは標準機能のみインストールされる“標準”を選択し、[次へ]ボタンをクリックします。

※ “標準”タイプをクリックした場合、選択したオプション、ヘルパーサービス、監視サービス、BOM 7.0 マネージャー(BOM 7.0 監視スケジューラを含みます)、コントロールパネル、テンプレートがインストールされます



6. [インストール]ボタンをクリックしインストールを開始します。



7. インストールが終了すると、以下のウインドウが表示されます

   続いて監視に必要なシステムの設定やインスタンスの設定を行いますので、画面中のチェックボックスは初期値のままで[完了]ボタンをクリックします

   “監視サービスをファイアウォールの例外に追加”チェックボックスを有効にすることにより、BOM 7.0 がコンソールとの通信に使用する BOM Helper Service が、OS の Windows ファイアウォールに例外として設定されます。例外設定は、次のプロファイルに対して実施されます

   ・ドメイン・プロファイル

   ・プライベート・プロファイル

   ・パブリック・プロファイル

8. ‘5 .2 システム設定と初期設定’での設定作業へ続きます。

5.1.2 完全インストール

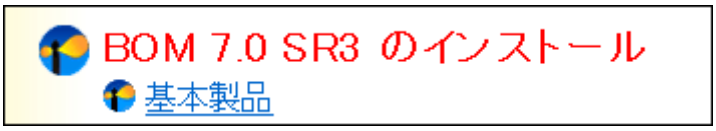
ここでは監視対象コンピューターに BOM 7.0 基本製品を完全インストールする手順をご案内いたします。

基本製品の完全インストールでは、オプション製品や BOM アーカイブデーターベース、レポートオプション等すべてのコンポーネントがインストールされます

1. BOM 7.0 の媒体をコンピューターに挿入し、インストールランチャーを起動します。

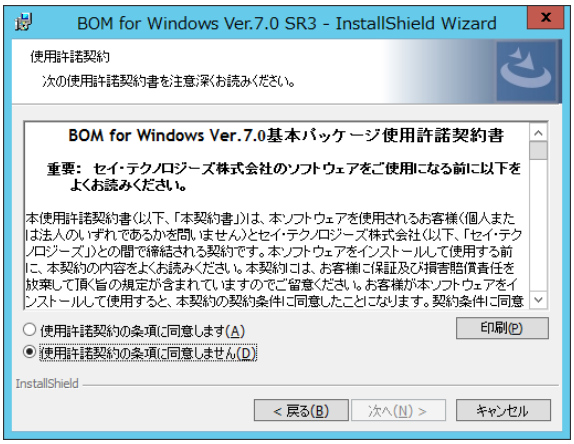
   ※ メディアの自動起動が設定されていない場合には、Windows エクスプローラーでインストールメディアを開き、“autorun.hta”を起動してください

2. BOM 7.0 SR3 のインストール”直下にある、“基本製品”をクリックし、セットアップウィザードを起動します

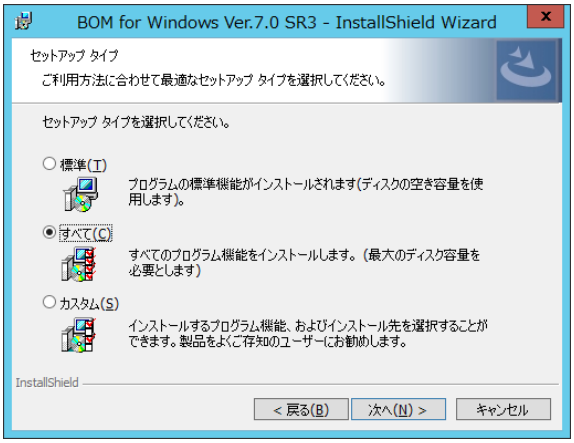


3. セットアップウィザードが起動しますので、[次へ]ボタンをクリックします。

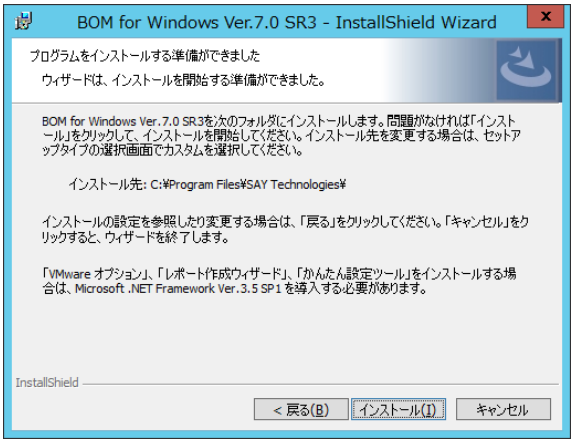
4. 使用許諾契約をお読みいただき、同意する場合は“使用許諾契約の条項に同意します”ラジオボタンをチェックし、[次へ]ボタンをクリックします。



5. インストール種別は全コンポーネントがインストールされるインストールされる“すべて”を選択し、[次へ]ボタンをクリックします。



6. [インストール]ボタンをクリックしインストールを開始します。



7. インストールが終了すると、以下のウインドウが表示されます。

続いて監視に必要なシステムの設定やインスタンスの設定を行います。“「システムの構成に関する Readme」を表示する”および“「アーカイブデータベース管理メニュー」を起動する”からチェックを外し、[完了]ボタンをクリックします。

※ “監視サービスをファイアウォールの例外に追加”および“集中監視 Web サービスをファイアウォールの例外に追加”のチェックボックスを有効にすることにより、BOM 7.0 がコンソールとの通信に使用する BOM Helper Service および、集中監視コンソールで使用する集中監視 Web サービスが、OS の Windows ファイアウォールに例外として設定されます。例外設定は、次のプロファイルに対して実施されます

・ドメイン・プロファイル

・プライベート・プロファイル

・パブリック・プロファイル

※ アーカイブデータベース管理メニューは BOM アーカイブデータベースを使用する際に必要なツールです。

詳細は ‘BOM for Windows Ver.7.0 アーカイブ ユーザーズマニュアル’ を参照ください。

8. ‘5 .2 システム設定と初期設定’ での設定作業へ続きます。

※ 完全インストールでは、オプション製品すべてがインストールされます。オプション製品をご利用いただくためには、インストール完了後ライセンスマネージャーによるライセンスの入力が必要です

5.1.3 カスタムインストール

ここでは監視対象コンピューターに BOM 7.0 をカスタムインストールする手順をご案内いたします。

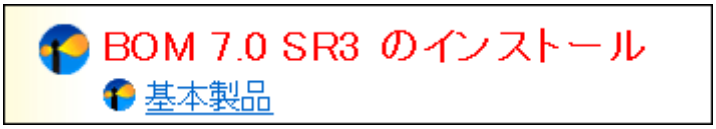
カスタムインストールでは、基本製品に加えて、オプション製品や BOM アーカイブデーターベース、レポートオプション等必要なコンポーネントを選択してインストールすることや、一部のコンポーネントのみをインストールすることが可能です。

また、BOM 7.0 のインストール先を変更する場合も、カスタムインストールでインストールを行ってください。

1. BOM 7.0 の媒体をコンピューターに挿入し、インストールランチャーを起動します。

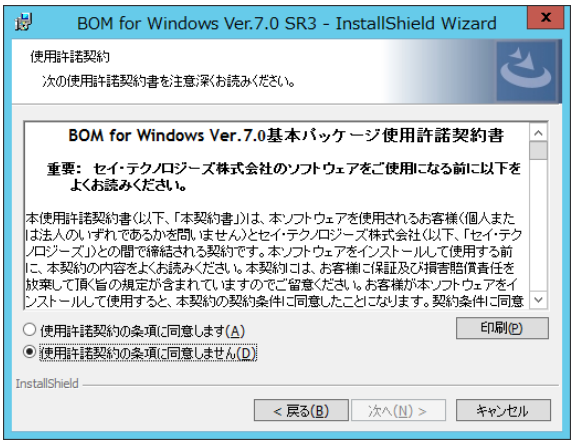
   ※ メディアの自動起動が設定されていない場合には、Windows エクスプローラーでインストールメディアを開き、“autorun.hta”を起動してください

2. BOM 7.0 SR3 のインストール”直下にある、“基本製品”をクリックし、セットアップウィザードを起動します

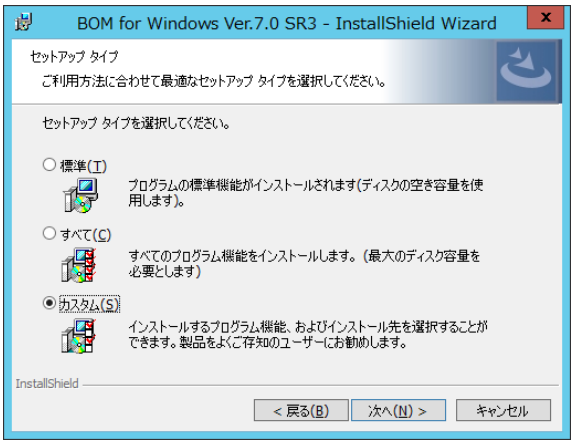


3. セットアップウィザードが起動しますので、[次へ]ボタンをクリックします。

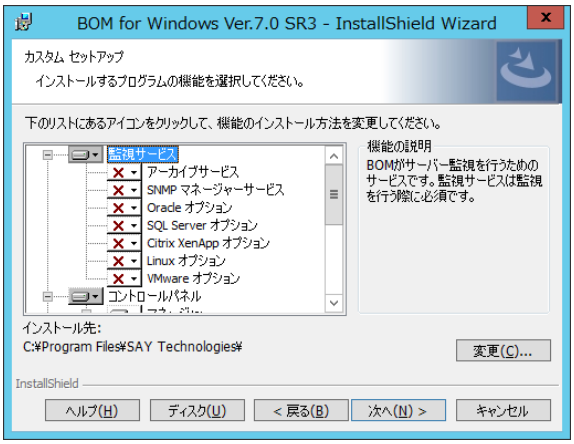
4. 使用許諾契約をお読みいただき、同意する場合は“使用許諾契約の条項に同意します”ラジオボタンをチェックし、[次へ]ボタンをクリックします。



5. インストール種別はインストールするコンポーネントを選択してインストールする“カスタム”を選択し、[次へ]ボタンをクリックします。



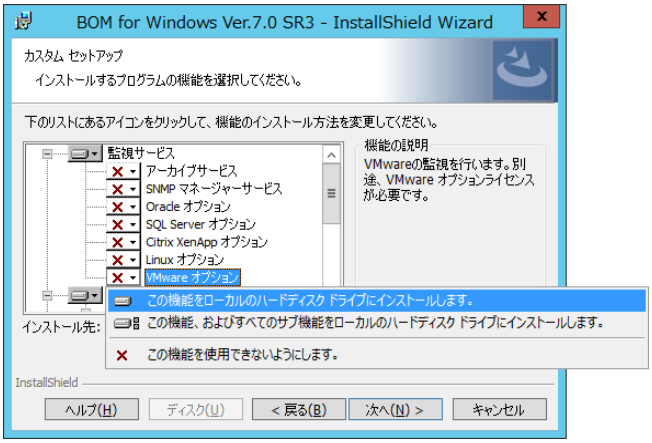
6. “カスタムセットアップ”ウインドウが表示されます。



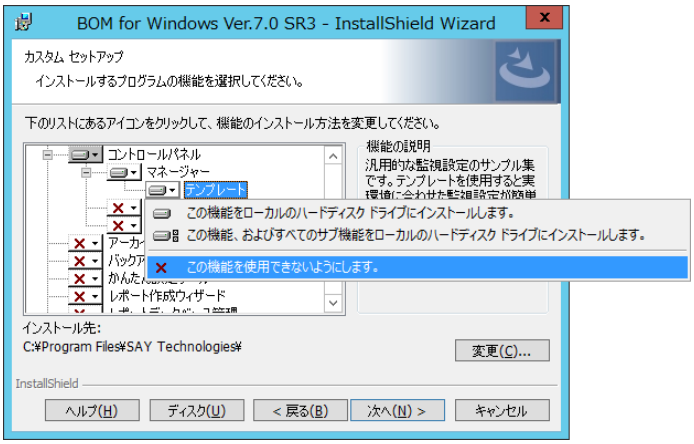
7. インストールするコンポーネント選択します。

初期値では、標準インストールでインストールされる監視サービス、コントロールパネル、マネージャー、テンプレートが選択されています。

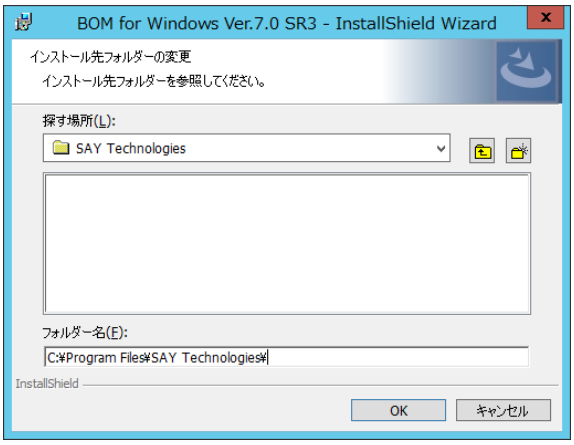
各コンポーネントをクリックし、“この機能をローカルのハードディスク ドライブにインストールします。”または“この機能、およびすべてのサブ機能をローカルのハードディスク ドライブにインストールします。”を選択することで、インストールするコンポーネントを追加できます。



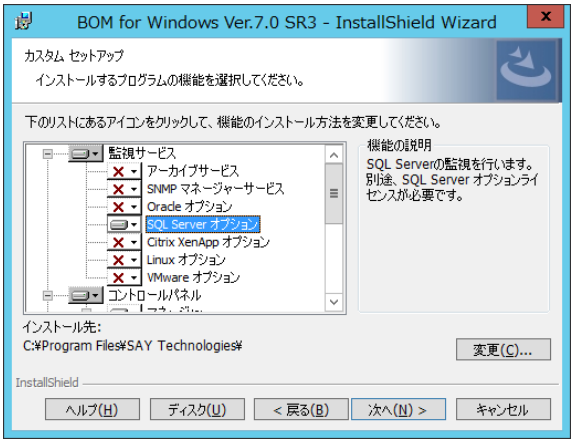
インストール不要なコンポーネントについては、“この機能を使用できないようにします。”を選択することで削除できます。



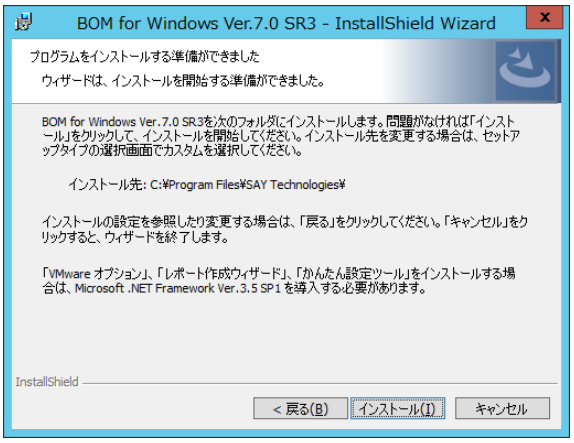
8. BOM 7.0 のインストール先を変更する場合は、“インストール先”欄にある[変更]ボタンをクリックしてください。
“インストール先フォルダーの変更”ウインドウが表示されますので、指定するインストール先を“探す場所”から選択するか、“フォルダー名”フィールドに入力して[OK]ボタンをクリックします。
※ “フォルダー名”フィールドに入力するディレクトリの表記に、環境依存文字および、;(半角セミコロン)、’(半角シングルクォーテーション)、#(半角シャープ)は使用できません。これらの文字が含まれていると、インストールに失敗します。



9. カスタムセットアップウィンドウへ戻りますので、必要な操作を完了後[次へ]ボタンをクリックします。



10. [インストール]ボタンをクリックしインストールを開始します。



11. インストールが終了すると、以下のウインドウが表示されます。

続いて監視に必要なシステムの設定やインスタンスの設定を行います。“「システムの構成に関する Readme」を表示する”チェックボックスからチェックを外し、[完了]ボタンをクリックします。

※ このウインドウで表示される項目は、インストールしたコンポーネントによって異なります。

●“監視サービスをファイアウォールの例外に追加”

●“集中監視 Web サービスをファイアウォールの例外に追加”

これらのチェックボックスを有効にすることにより、BOM 7.0 がコンソールとの通信に使用する BOM Helper Service や、集中監視コンソールで使用する集中監視 Web サービスが、OS の Windows ファイアウォールに例外として設定されます。

例外設定は、次のプロファイルに対して実施されます

・ドメイン・プロファイル

・プライベート・プロファイル

・パブリック・プロファイル

●“「アーカイブデータベース管理メニュー」を起動する”

このチェックボックスを有効にすることにより、BOM アーカイブデータベースを使用する際に必要なアーカイブデータベース管理メニューが起動します。

このツールの詳細は‘BOM for Windows Ver.7.0 アーカイブ ユーザーズマニュアル’を参照ください。

12. ‘5 .2 システム設定と初期設定’での設定作業へ続きます。

5.2 システム設定と初期設定

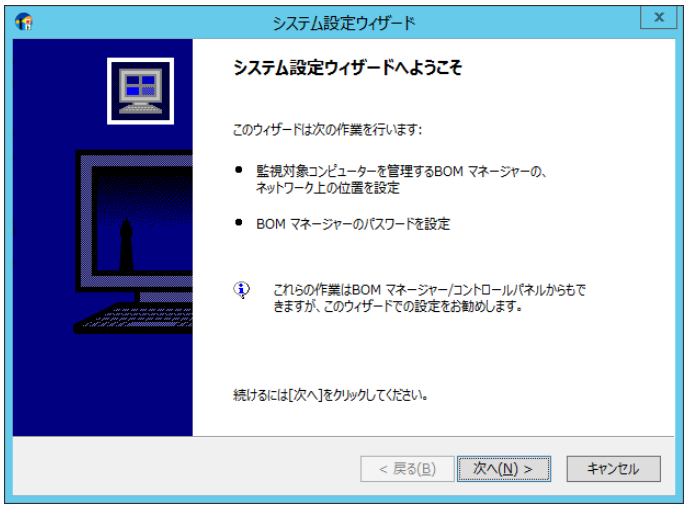
BOM 7.0 の新規インストール操作を実行し、セットアップウィザードが終了した後、インストールの初期設定ではシステム設定ウィザードが起動し、ネットワークの設定などを行います。また、その後に起動する初期設定ウィザードでは、監視インスタンスの基本設定を行います。

本項ではプログラムのインストール後に起動する、システム設定ウィザードと初期設定ウィザードについてご説明します。

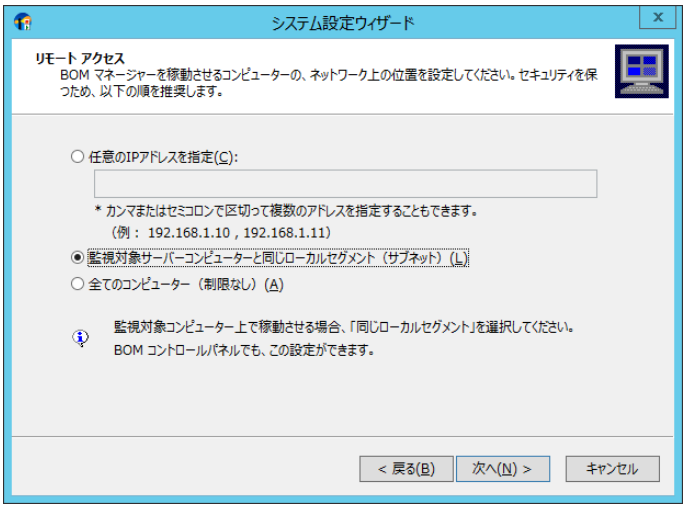
5.2.1 システム設定ウィザード

システム設定ウィザードでは、BOM7 ヘルパーサービスに接続を許可する IP アドレス範囲の設定と、接続パスワードの設定を行います。

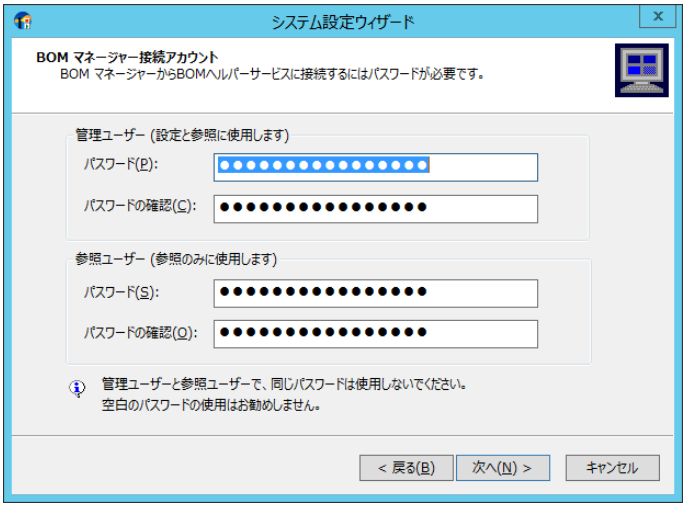
1. システム設定ウィザードを前面に表示し[次へ]ボタンをクリックします。



2. インストールした BOM 7.0 に対してリモート接続を許可するアドレスを設定するウインドウが表示されます。
   BOM ヘルパーサービスへの接続を許可する範囲を設定し、[次へ]ボタンをクリックします。



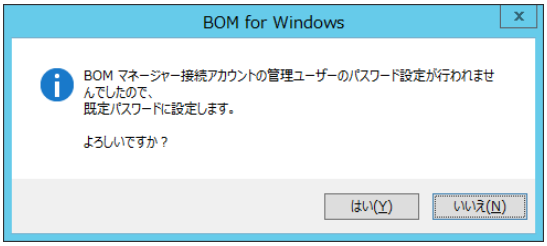
3. BOM 7.0 マネージャーから BOM ヘルパーサービスへ接続するパスワードを入力し[次へ]ボタンをクリックします。



※ 管理ユーザー及び参照ユーザーの初期パスワードは“bom”です。ウインドウで設定を変更しない場合、初期パスワードが設定されます

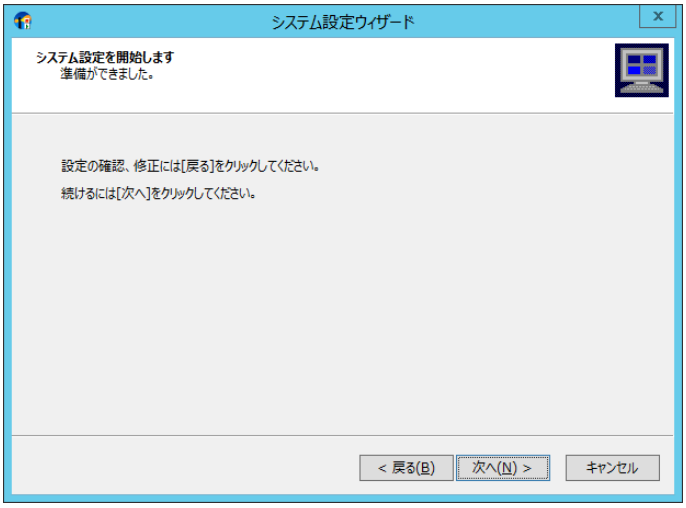
※ パスワードは英数半角で 16 文字以内です。セキュリティ確保のため、パスワードを変更することを推奨致します

パスワードを変更せずに[次へ]ボタンをクリックした場合、確認のために以下のウインドウが表示されます。設定に問題が無い場合には[はい]ボタンをクリックし次のステップへ進みます。

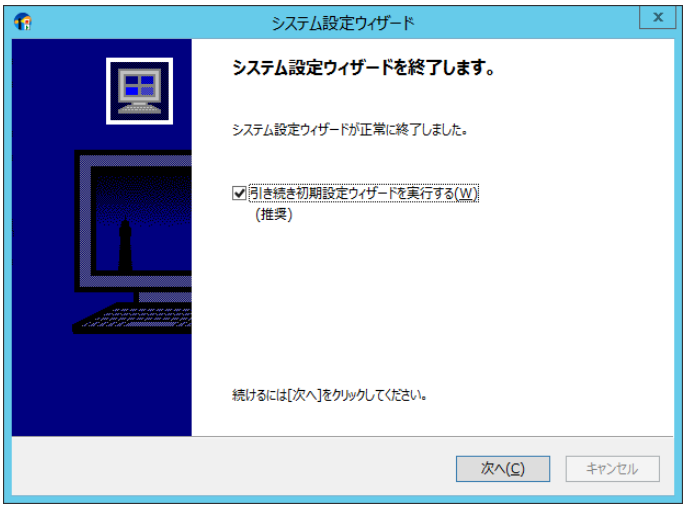


4. [次へ]ボタンをクリックしシステム設定を適用します。

設定内容の確認や修正を行う場合には、[戻る]ボタンをクリックし前のウインドウを表示してください。



5. システム設定が終了しました。次のステップで初期設定ウィザードによるインスタンスの設定を行いますので[次へ]ボタンをクリックします。

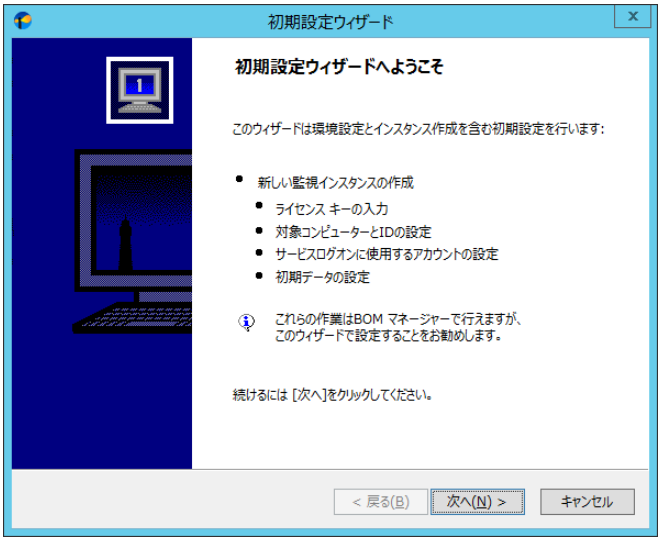


5.2.2 初期設定ウィザード

初期設定ウィザードでは、監視インスタンスを作成しそのインスタンスについての基本設定を行います。また、必要に応じてテンプレートのインポートや、お客様が作成した監視項目のインポートが可能です。

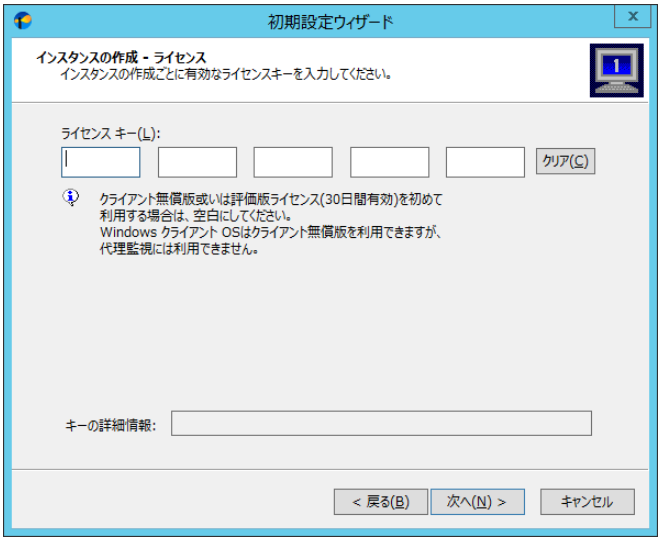
本項では、新規インストールに伴う初期設定ウィザードによるインスタンス設定を、ローカル監視インスタンスの作成を例にして、ご説明します。

1. 前項‘5.2 システム設定と初期設定’の終了後、初期設定ウィザードが起動します。[次へ]ボタンをクリックします。



2. ライセンスの入力ウインドウが表示されます。

ライセンスをご購入済みの場合は、“ライセンスキー”を入力し[次へ]ボタンをクリックします。



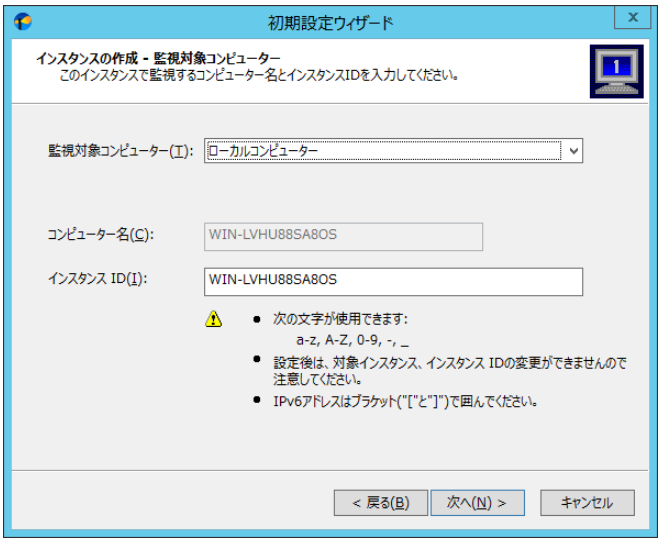
※ サーバーOS へのインストール時に、ライセンスキーを未入力のままで[次へ]ボタンをクリックすると、30 日間有効の評価版ライセンスが自動的に適用されます

※ Windows クライアント OS へのインストール時に、このウインドウでライセンスキーの入力を行わずに[次へ]をクリックすると、クライアントライセンスが自動的に適用されます。クライアントライセンスは、BOM のライセンス契約上 BOM 7.0 をご購入済み（サーバーライセンスを保持している）場合にのみ使用を許可しておりますのでご注意ください。また、クライアントライセンスでは、代理監視インスタンスの作成はできません

※ サーバーライセンスをお持ちでない場合、Windows クライアント OS への導入は BOM の評価版のみに限定致します。実運用を行うには、サーバーライセンスが必要です

3. インスタンスの種類と監視対象コンピューター及びインスタンス名を指定します。

ここでは初期値のまま[次へ]ボタンをクリックします。

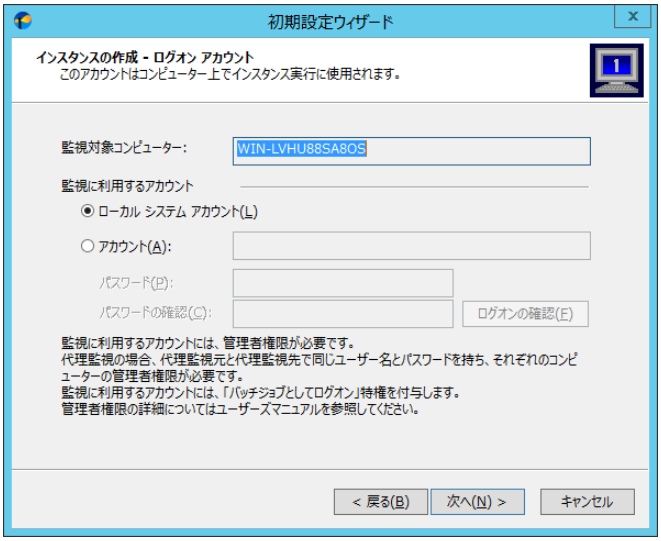


※ 新規インストール時に代理監視インスタンスを作成する場合には、“監視対象コンピューター”プルダウンメニューで“代理監視コンピューター”を選択します

※　インスタンス ID は、同一コンピューター内で重複しない 100 文字以内の ID にする必要があり、インスタンスの作成後に変更することはできません

※　インスタンス ID に使用できる文字は、半角英数文字の a-z,A-Z,0-9,-（ハイフン）,_（アンダーバー）です

4. 監視に使用するアカウントを指定し[次へ]ボタンをクリックします。



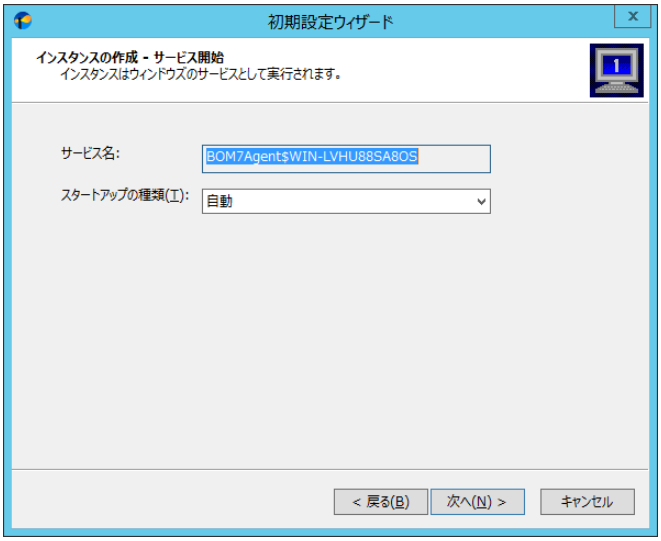
※　監視用のアカウントを別途用意している場合には、このウインドウでアカウントの指定が行えます

※　監視用のアカウントには、監視対象コンピューターに対しての完全な Administrator 権限の付与が必要です

※　ローカルコンピューターを監視する場合には初期値の“ローカル　システム　アカウント”で監視が可能です

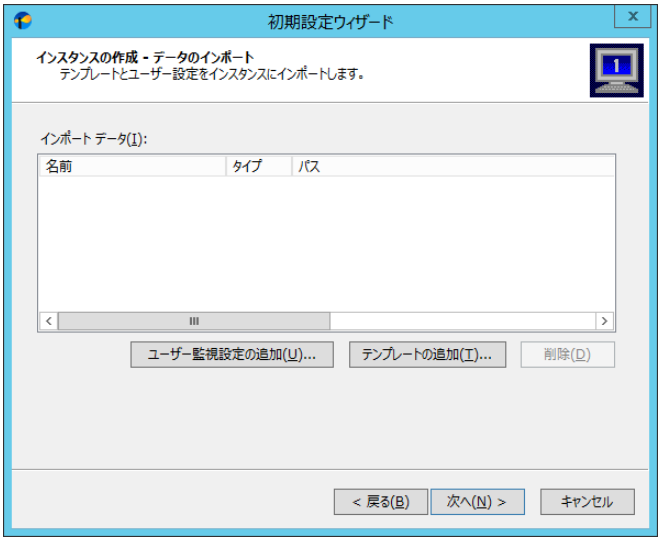
※　ローカル　システム　アカウント以外のアカウントを指定した場合、そのアカウントにバッチジョブとしてのログオン実行の権限が付与されます

5. 監視サービス（BOM7Agent）のスタートアップの種類を設定し　[次へ]ボタンをクリックします。

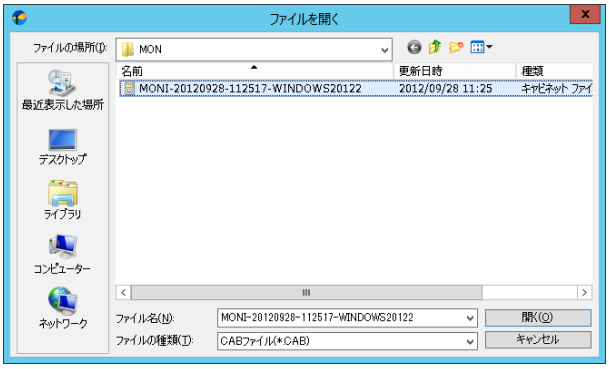


6. “データのインポート”ウィンドウが表示されます。

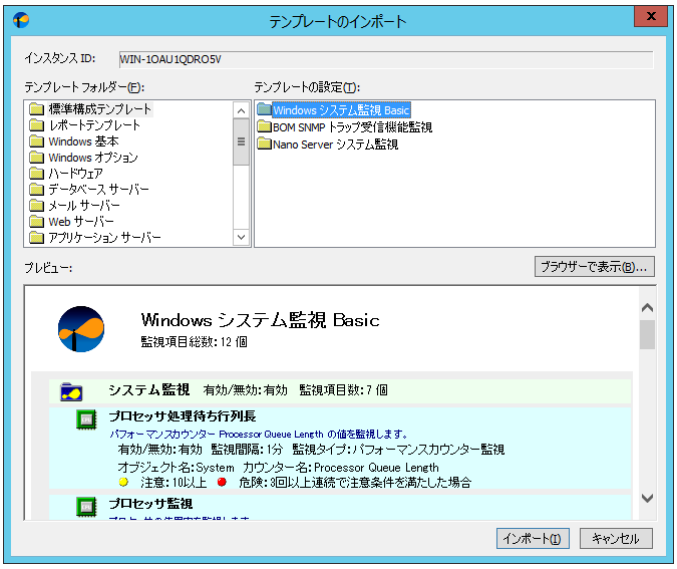
必要に応じて監視設定の追加、テンプレートの追加を行い、、[次へ]ボタンをクリックします。



[ユーザー監視設定の追加]ボタンをクリックすると、お客様があらかじめ用意した設定ファイル(BOM 7.0 マネージャーから監視設定のエクスポート操作で出力したファイル)を読み込むことが出来ます



[テンプレートの追加]ボタンをクリックすると、"テンプレートのインポート"ウインドウが開き、BOM 7.0 の付属テンプレートの中から必要なテンプレートをインポートできます



※ 過去の BOM 製品用に公開されている監視テンプレートや、それらの製品からエクスポートされた監視設定は互換性がない為、インポートを行うことはできません。

7. インスタンス作成の実行ウインドウが表示されます。

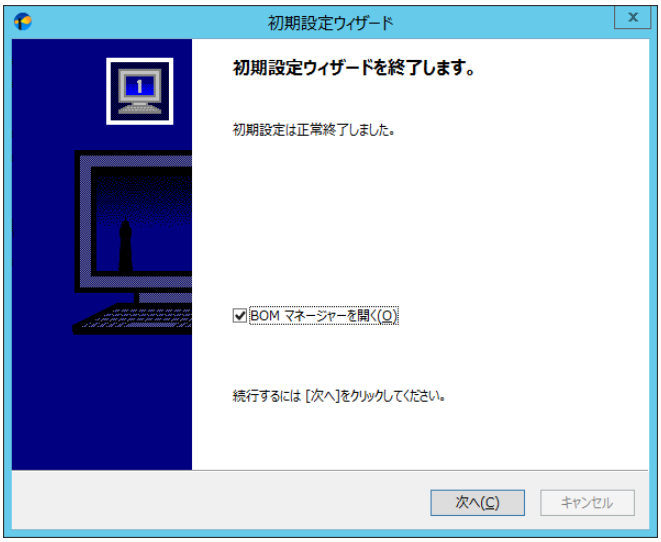
設定内容に間違いがないことを確認し、[開始]ボタンをクリックします。

※　複数のインスタンスを作成する場合は、[追加]ボタンをクリックしライセンスキー入力画面に戻りますので、別インスタンスを作成してください

※　インスタンス名を選択し[変更]ボタンをクリックするとライセンスキー入力画面に戻ますので、必要に応じてライセンスキーの変更、インスタンス名の変更を行ってください

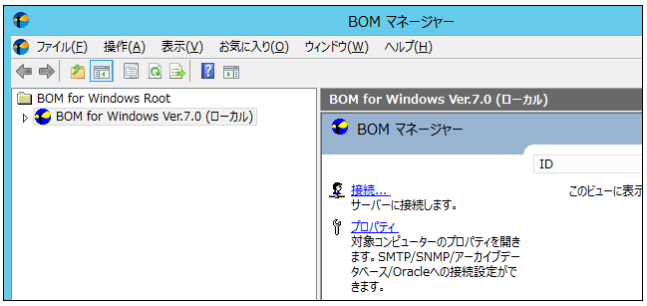
※　インスタンス名を選択し[削除]　ボタンをクリックすると選択したインスタンス名が削除されます

8. インスタンスの作成が終了すると、初期設定ウィザードの終了ウインドウが表示されます。続いて BOM 7.0 マネージャーでインスタンスの確認を行いますので、[次へ]ボタンをクリックします。



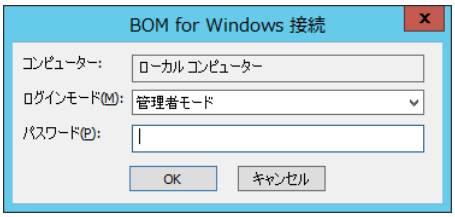
9. BOM 7.0 マネージャーが起動します。

画面上の左側（以下スコープペイン）の“BOM for Windows Ver.7.0(ローカル)”をクリック後、右側（以下リザルトペイン）にある“接続”リンクをクリックします。

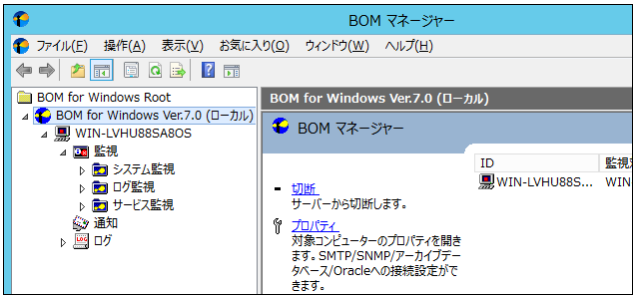


10. 接続パスワード入力ウインドウが表示されます。

BOM7 ヘルパーサービスの初期パスワード“bom”、または、インストール実行中に設定した管理者モードのパスワードを入力し、[OK]ボタンをクリックします。



11. スコープペインでスナップイン“BOM for Windows Ver.7.0(ローカル)”を展開し、インスタンスが作成されていることを確認します。



ここまでの設定で、基本的な監視の実行が可能となります。

テンプレートをご利用の際、テンプレートに含まれる監視設定のしきい値は、汎用的な環境に沿って作成した値ですので、実際の運用環境に合わせて適宜変更してください。

第6章 BOM 7.0 のアンインストール

本章では、BOM 7.0 をインストール済みの環境からアンインストールする手順をご説明します。

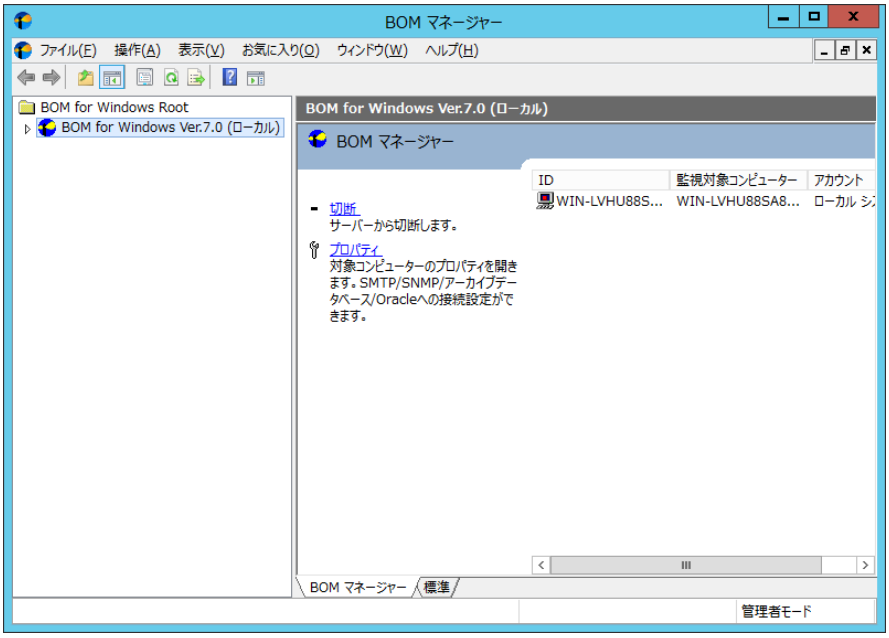
Windows コンピューターBOM 7.0 をアンインストールする場合には、最初に適用済みのライセンスキーを削除する必要があります。ライセンスキーを削除したあと、プログラムの削除を実行してください。

6 .1 ライセンスの削 除

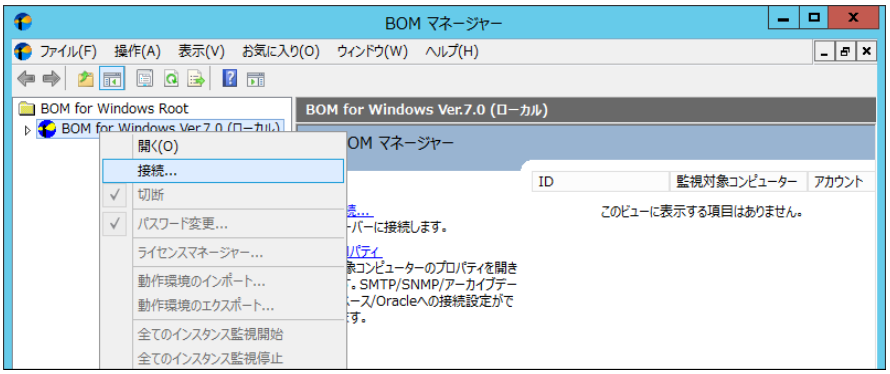
この項では、ライセンスマネージャーを使用したライセンス削除の手順を、基本製品のライセンスを例にご説明します。オプション製品のライセンスを削除する手順も、この手順と同じく行っていただけます。

1. “スタート”を表示し“BOM 7.0 マネージャー”をクリックします。

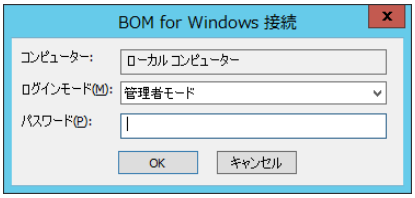
2. BOM 7.0 マネージャーが起動します。



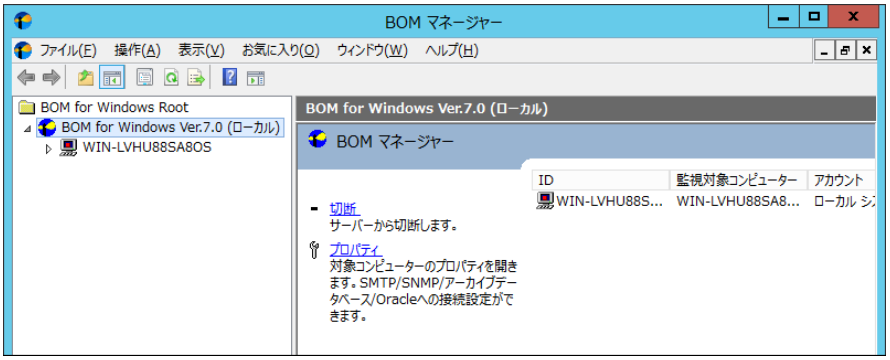
3. リザルトペインの“接続”をクリックするかスナップインを右クリックし、メニューから“接続”を選択します。



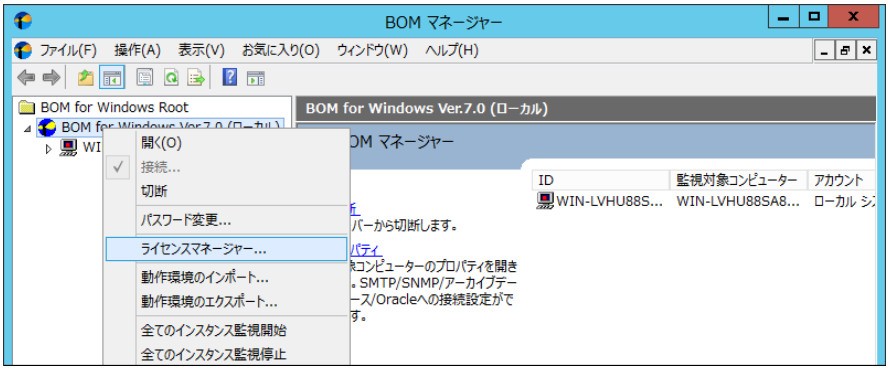
4. “パスワード”欄に接続パスワード(既定では“bom”)を入力し、[OK]ボタンをクリックします。



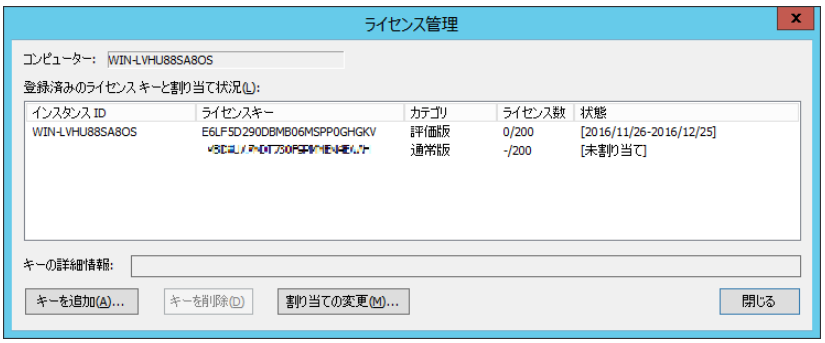
5. 同じスナップイン下のインスタンスが全て停止していることを確認します。



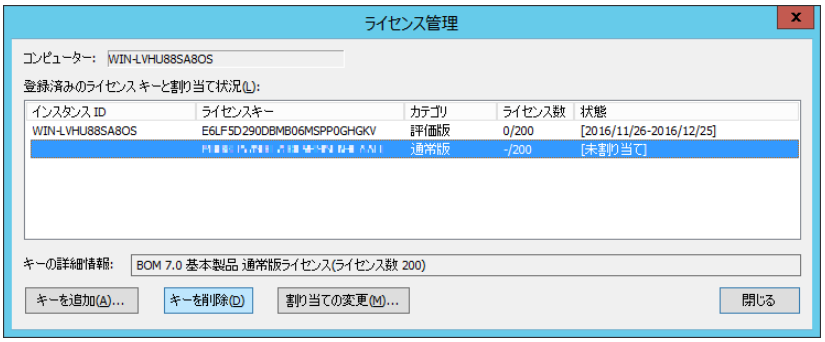
6. BOM for Windows (ローカル)を右クリックし、メニューから“ライセンスマネージャー…”をクリックします。



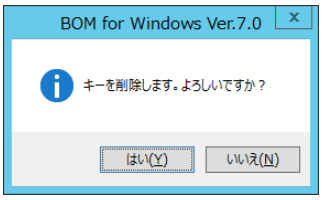
7. “ライセンス管理”ウインドウが表示されます。



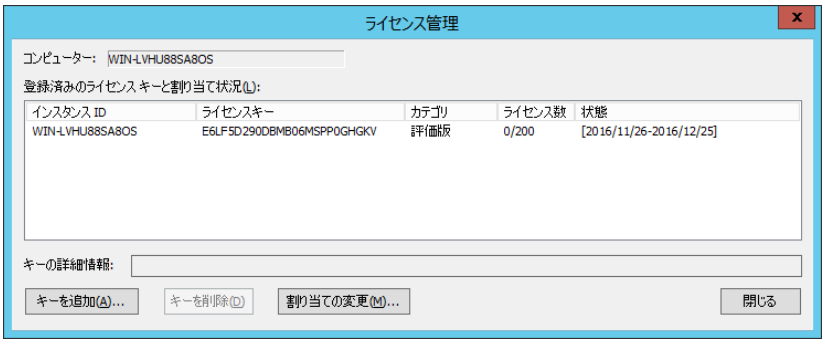
8. “通常版”のライセンスキーをクリックし、[キーを削除]ボタンをクリックします。



9. 確認のダイアログが表示されます。[はい]ボタンをクリックし、削除を実行します。



10. キーが削除されたことを確認し、[閉じる]ボタンをクリックします。

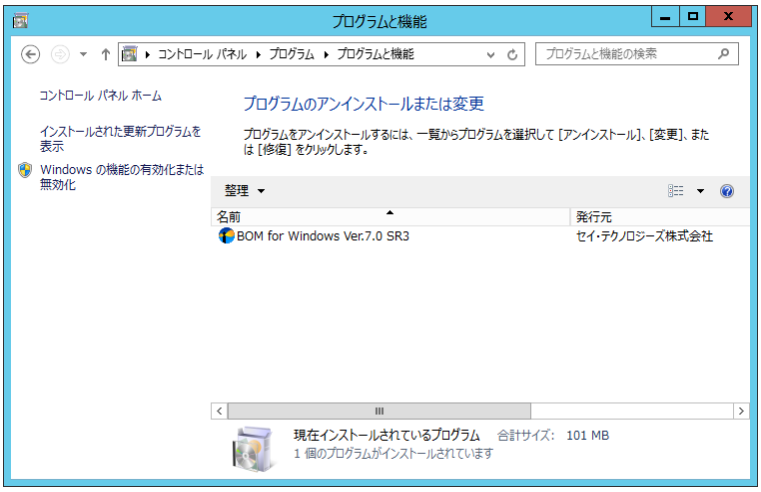


6 .2 プログラムの一 括 アンインストール

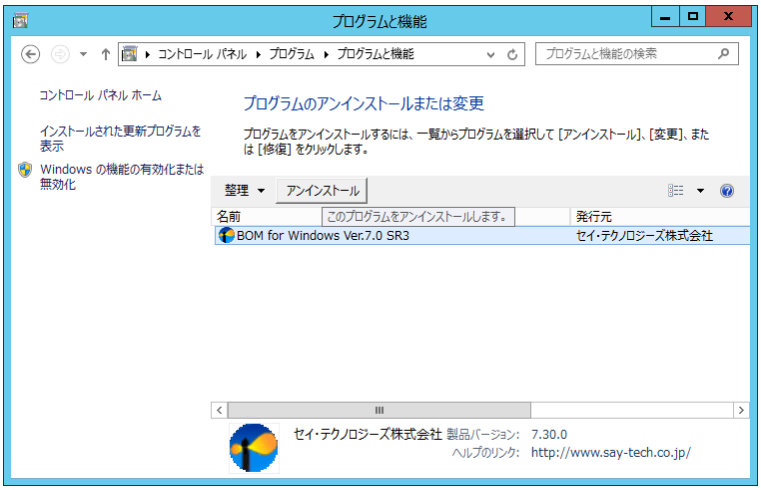
この項では、Windows コントロールパネルを使って BOM 7.0 のインストール済みのコンポーネントの一括アンインストールを行う手順をご説明します。

この項でご説明する手順を実行することにより、アーカイブデータベースを除く、すべての BOM 7.0 コンポーネントが削除されます。

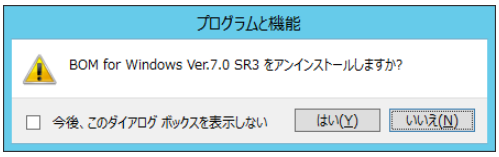
1. コントロールパネルを開き、“プログラムと機能”を開きます。



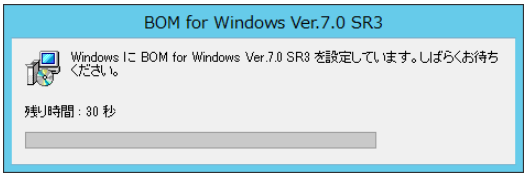
2. BOM for Windows Ver.7.0 SR3 をクリックし、[アンインストール]ボタンをクリックします。



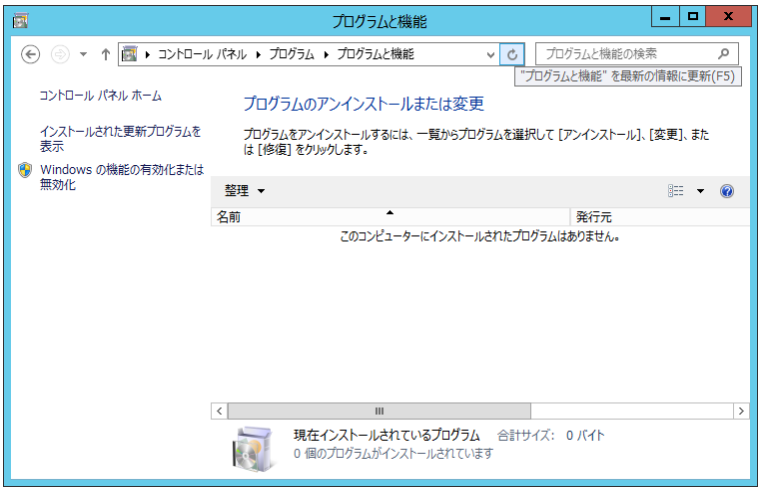
3. アンインストールの確認ダイアログが表示されますので、[はい]ボタンをクリックしアンインストールを実行します。



4. アンインストールが実行されます。



5. リストから“BOM for Windows Ver.7.0 SR3”が削除されたことを確認し、“プログラムと機能”を閉じます。



第7章 付録

7.1 評価版ライセンスキー

7.1.1 BOM 7.0 基本製品評価版ライセンスキー

基本製品評価版ライセンスキーは、オプション製品を除いたBOM 7.0の全機能が製品版と同様に使用できる、30日間有効のライセンスキーです。ローカル監視、代理監視という監視インスタンスの種類にかかわらず、監視インスタンスを複数作成して BOM 7.0の評価を行っていただく際にご利用いただけます。

※ 有効期限は該当の評価版ライセンスキーを適用したインスタンスが作成された日を起点としてカウントします。

サーバーOS 上で、新規インストール時にライセンスキーを入力せずに作成した監視インスタンスには、下に記載されているものとは異なる評価版ライセンスキーが適用されています。

クライアントOSで、インストール時にライセンスキーを指定していない場合には、自動的にクライアントライセンスが適用されています。クライアントライセンスが使用されているBOMでは代理監視インスタンスが作成できませんので、代理監視を評価される際は、ライセンスマネージャーからインスタンスに割り当てられているクライアントライセンスキーの割り当てを解除し、改めて評価版ライセンスキーを割り当てた後で代理監視インスタンスを作成してください。

A. BOM 7.0 基本製品 評価版追加ライセンスキー

CJNQD-TKWGT-T2H6U-P1MDM-C4A06

MFFCP-41024-9PDP1-6U4B4-2M4MK

1LHP8-M1G3L-84PMW-424TX-UTUH4

7.1.2 オプション製品の評価版ライセンスキー

各オプション製品の評価にご利用いただけるライセンスキーです。これらの評価版ライセンスキーも有効期限は 30 日ですが、先に基本製品評価版ライセンスキーを適用したインスタンスがある環境では、そちらの有効期限に準じた使用期限となります。

※ BOM Citrix XenApp® オプション Ver.7.0については、‘BOM Citrix XenApp® オプション Ver.7.0 ユーザーズマニュアル’に製品版ライセンスキーを記載しております。

A. BOM VMware オプション Ver.7.0 評価版ライセンス

UR49M-A2A1X-SCEC7-VAVRM-84U82

XH51L-2B68K-H85CE-R1K0X-HE56E

JEAMS-VX9UV-74DH1-0EA3A-SA8AX

B. BOM Linux オプション Ver.7.0 評価版ライセンス

L3FRP-8685V-FVLV8-860B4-NM4MM

LXCEU-N3K16-A4X03-HDTH1-8MQXQ

4AUHC-3FPD2-42UK2-6CE19-GR4XW

C. BOM Oracle オプション Ver.7.0 評価版ライセンス

0HS08-QTCRR-GTBB1-EX67H-C4A2E

D. BOM SQL Server オプション Ver.7.0 評価版ライセンス

SG2GR-KNPM2-WT4AD-XJMQA-BEX0M

BOM for Windows Ver.7.0

インストールマニュアル

2017 年 1 月 1 日　初版
2020 年 4 月 28 日　改訂版

著者　セイ・テクノロジーズ株式会社
発行者　セイ・テクノロジーズ株式会社
発行　セイ・テクノロジーズ株式会社
バージョン　Ver.7.0.30.0

© 2017 SAY Technologies, Inc.